

Windows XP から Windows8.1 への移行

パソコン・勉強会 2014(H26).4.27

2014(H26).3.30 T.Ogawa

今や 8 割の世帯がパソコンを所有し、うち 3 割が XP を使っているにも拘らず大きな話題にならず XP のサービス終了日が通り過ぎていった。

XP サポート終了の 4 月 9 日の日経新聞には、6 月末でも個人所有のうち 351 万台 (8.3%)、企業所有の 241 万台 (6.6%) が XP のまま残っていると予測している。そしてサポート終了後の XP は最新の 8.1 に比べて 21 倍マルウェアに感染しやすくなると警告している。

パソコンを趣味にしているパソコン関係者がセキュリティ対策ソフトだけで XP を使い続けて、被害を受けたり、第三者への攻撃の踏み台になったりしては「…とほほ！」である。現行パソコンの OS を 8.1 にバージョンアップするなり、8.1 搭載パソコンを購入するなりしてセキュリティ確保を図るべきと考える。

今回の勉強会では愛機であった XP パソコンのデータ (お気に入り、アドレス帳、メール、ドキュメント、ピクチャ、ビデオ、ミュージック等) を手作業で 8.1 パソコンに移行する方法について説明する。また 3 月 24 日に日本 MS が期間限定で急きょ無償提供を発表した XP⇒8/8.1 専用の移行ツールを紹介する。

なお、河原さんから頂いた資料 ① 転送チェックシート (河原) と ② ファイルと設定を転送する (河原) を本資料と一緒にアップロードするので参考にしてください。河原さんありがとうございました。

目次

1. XP のサポート終了とセキュリティ問題	1
1.1. セキュリティ対策の四本柱	1
1.2. Windows XP のサポート終了	3
2. Windows XP から Windows 8.1 への移行手段について	5
2.1. Win. XP からの移行先 Windows バージョンについて	5
2.2. 移行の手段 (ツール)	6
3. 手作業による Win. XP から Win. 8.1 へのデータ移行	9
3.1. データの移行のための準備	10
3.2. XP パソコンから移行データを USB メモリにコピーする	11
3.3. USB メモリの移行データを Win. 8.1 パソコンに移行する	21



1. XP のサポート終了とセキュリティ問題

つい先日までマスコミでは 17 年ぶりの消費税率アップの話題でもちきりになっていました。

しかし世界的に見れば、コンピュータで使用していた西暦下 2 桁が 99 年から 00 年に減少する「2000 年問題」に匹敵するともいわれる「2014 年問題」の Windows XP のサポート終了が 4 月 9 日にあまり騒がれずに過ぎてしまいました。

1.1. セキュリティ対策の四本柱

1980 年代に出現したウイルスはマニアックな愉快犯が悪戯画面を表示させる程度のものだった。コンピュータが爆発的に普及しネットワーク化した今日では、マルウェア^(※1)と呼ばれるようになり、悪意のある犯罪者が高度な技術を駆使して金銭的、反企業的・反国家的な目的のために攻撃を行うものになってきた。

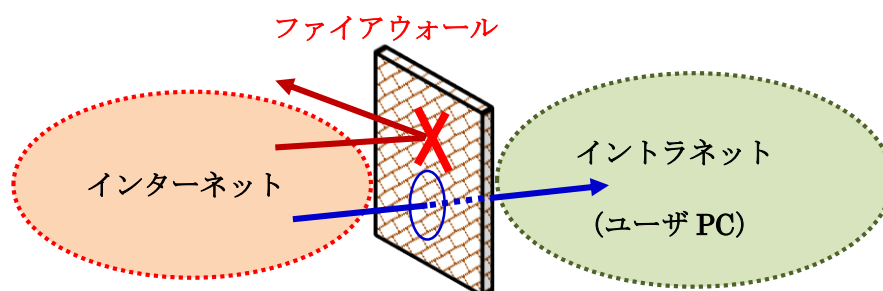
(※1) マルウェアとは ウイルス (ファイル内に入り込み破壊活動を行い増殖する)、ワーム (単独プログラムとして破壊活動を行い増殖する)、スパイウェア (内部に潜み、密かに情報を盗み出す)、アドウェア (強制的に広告ウィンドウを表示) 等々の「悪意のこもった」ソフトウェアのこと。

マルウェア マリシヤス
Marwareは、Malicious (悪意のある) の「mal-」とSoftwareの「ware」を組み合わせた造語

1) ファイアウォールによる外敵侵入の阻止

ファイアウォール (防火壁) はコンピュータへの外敵の侵入を防ぐ一番目の防御線であり、外部 (インターネット側) からの不正な侵入を阻止する。個人ネットワークでは、ブロードバンドルータ (光回線/ADSL 回線業者が設置する通信装置) やパーソナルファイアウォール (Windows、セキュリティ対策ソフト) がファイアウォールとして外部からの不正な侵入を防いでいる。

(参考) 2012.9.23 に勉強したパソ救勉・強会の資料「ネットワーク・プロトコルの概要」の 10 頁にある 4.1 節の 4) 項「ブロードバンドルータ」を参照のこと



2) セキュリティ対策ソフトによるマルウェア防御

セキュリティ対策ソフトは外敵の侵入を防ぐ二番目の防御線であり、ファイアウォールを通過してきたデータを最新のパターンファイル (指名手配書の役割) と照合することでマルウェアを探し出し侵入を阻止する。

「パターンファイル」は、マルウェアを識別し処理する情報がデータベース化されたものであり、これにはマルウェアの特徴、振る舞い、検知後の処理方法が書かれている。

パターンファイルが1日に数回更新されているのに対し、1日10万件（2012年のマカフィ調査）の新規マルウェアが検出されている。遅滞なくパターンファイルの更新をすることが重要である。

セキュリティ対策ソフトは必要不可欠な防御手段であり、これを私用しないと外敵の侵入を防ぎ得ない。しかしマルウェアとセキュリティ対策ソフトは矛と盾の関係にあり、次のような問題があるので完全にはマルウェアを防ぎきれない。

- ✧ ソフトの脆弱性^{ぜいじやくせい}（※2）が発見された日に、その脆弱性の情報や対策が公開される前にその脆弱性を悪用して行う「Zero Day^{ゼロ デイ}攻撃」が近年増加している。

セキュリティ対策ソフトのパターンファイルは、脆弱性が明らかになってその情報に基づいて作られる。脆弱性が明らかになってパターンファイルが有効になるまでに、ある程度の時間を要し隙間が生じるのでゼロデイ攻撃のターゲットになる。

また近年は、「悪意のある犯罪者」たちの間で攻撃ノウハウの情報共有が進み、それに伴ってゼロデイ攻撃が増えている。

（※2）脆弱性^{ぜいじやくせい}はセキュリティホールとも言われている。情報システムの脆弱性にはハードの欠陥、ソフトのバグ、予想外の利用形態、設計の見落とし等々がある。攻撃者（悪意のある犯罪者）はソフトのバグや問題点を悪用して情報システムを攻撃し被害をもたらして利益を得ている。

ソフトの脆弱性は「弱った人は病気になりやすい」にあたり、弱った人（持病、衰弱、疲労、怪我等で体力がない人）は、細菌／ウイルス、環境変化、有害物質等により重篤^{じゅうとく}な病気にかかり易いのと似ています。

- ✧ 「悪意のある犯罪者」は高度な専門技術を持っていて、作成したマルウェアがセキュリティ対策ソフトをすり抜けることをテストした後にネットを通じて攻撃する傾向にあるので、セキュリティ対策ソフトをすり抜けること多くなっている。

3) Windows Update による脆弱性の修正

Windows Update は三番目の防御線であり、ファイアウォールやセキュリティ対策ソフトを通り抜けてきた攻撃に負けないように、システムの脆弱性を修正してシステムを頑強にする M S 社の無償サポートである。

MS 社は脆弱性修正や機能改善等のため、毎月第 2 火曜日（日本時間は翌水曜日）と緊急時に Windows Update として更新プログラムを無償提供している。

Windows Update での無償サポートは、MS 社規定で Windows バージョン毎に最短 10 年間（※3）にわたって行われる。

（補足）Windows のように 5,000 人規模のソフト技術者が参加し開発する膨大なソフトには無数ともいわれる不良箇所（設計ミス、製造ミス）が隠れています。この潜在化^{せんざいか}した不良箇所は発売後に次々と不具合や脆弱性として表に出てきます。

表に出てきた不良箇所は Web 上（MS 社ではセキュリティアドバイザー）で公開されるので、待ち構えていた悪意のある犯罪者がこの脆弱性を悪用して攻撃してきます。

(※3) 前半の5年間は「メインストリームサポート」と呼ばれ、不具合修正、セキュリティ修正に加えて機能追加・改善等のための更新プログラムを無償提供する。
 後半の5年間は「延長サポート」と呼ばれ、不具合修正、セキュリティ修正のための更新プログラムを無償提供する。

【表1】Windowsの発売開始日とサポート終了日

名称（製品名）	バージョン	発売開始	サポート終了
Windows XP	NT5.1	2001.11.16	2014.4.8
Windows Vista	NT6.0	2007.1.30	2017.4.11
Windows 7	NT6.1	2009.10.22	2020.1.14
Windows 8	NT6.2	2012.10.19	2023.1.10
Windows 8.1	NT6.3	2013.10.18	2023.1.10
Windows 9	NT6.4?	2015.4?	

4) 新バージョンのWindowsによるセキュリティ機能の改善と充実

バージョンアップは四番目の防御線である。セキュリティ対策として大きな話題になりにくい、パソコンの普及・発展とともにユーザニーズ、使用形態、使用分野等々が増加し変化している。それに伴って新たなセキュリティ機能の追加やセキュリティ機能の改善が必要になってくる。

しかし古いWindowsでは新たに求められるようになった機能追加や機能改善が容易でない場合がある。そうした場合は新しいWindowsでの対応とならざるを得ない。

このことから分かるように新しいWindowsにはセキュリティ関係の新しい機能や改善された機能が組み込まれているのでセキュリティレベルは格段に向上している。可能な限りセキュリティ機能が充実し進歩している新しいWindowsを使用すべきと考える。

1.2. Windows XP のサポート終了

1) セキュリティ エssenシャル Security Essentialは2015/7/14まで延期、最後の更新プログラム入手は1年間

Windows XP 関連製品^(※4)のサポートは、例外的に2001年の発売以来12年半にわたり続けられてきたが、去る4月8日（時差で日本は翌4月9日）の更新プログラムでサポートが終了した。

なおMS社は、「サポート終了製品の最終回の更新プログラムを最低1年間提供する」と規定^(※5)している。この規定によると2014年4月9日（日本時間）にサポートが終了したWindows XP 関連製品の**最後の更新プログラムは、2015年4月8日（？）まで提供されるので、それまでは最後の更新プログラムをインストールするWindows Updateが可能**である。

【重要】Win. XP の Windows Update の起動手順が次のように変更された

従来： [スタート] → [コントロールパネル] → [Windows Update]

4月以降： [スタート] → [ヘルプとサポート]

→ [コンピュータを Windows Update で最新の状態に保つ]

(※4) XP 本体、Office 2003、XP 用 Internet Explorer (IE6)、XP 用メールソフト、XP 用ドライバ、XP モード
 いつの間にか現在では、XP 用 MS Security Essential のサポートを2015年7月14日までに延長している

出所 URL : (http://www.forest.impress.co.jp/docs/news/20140116_631022.html)

(※5) サポート終了により最後の更新プログラムは [マイクロソフト サポート ライフサイクル] の [オンラインセルフサポート] 欄に「…また、サポートが終了した製品に対してその後、最短 1 年間提供されます。…」と記載 (<http://support.microsoft.com/lifecycle/>)

2) Win. XP を使い続けるとどうなる？

Win. XP のサポート終了後は、オンラインで使用しないことは絶対条件である。また該当パソコン以外の機器^(※6)との間で各種メディア^(※7)を使用しないことも条件である。

(※6) 他のパソコン、タブレット、スマホ、デジカメ、写真屋のプリント機器、

(※7) USB メモリ、SD カード類、CD/DVD/BD、外付 HDD、デジカメ接続等)

問題 1) オンラインで使用すると犯罪者に協力することになる

「他のパソコンがあるから、この XP パソコンは感染してもよいのでインターネット検索だけに使用する」と言い張る方もあるかと思う。

しかしそれは自己中心的な考えである。脆弱性を悪用されてボットに感染し攻撃者の指令で意のままに動いて **D D o S** 攻撃^(※8) やスパム送信^(※9) に利用され他人に重大な危害を及ぼす踏み台になる可能性があることを忘れないでほしい。

(※8) ボット (ロボットの意) に感染したパソコンを攻撃者が築いたボットネットに組み込み、攻撃者の指令で指定されたサーバーに対して一斉にデータを送信しパンクさせる

(※9) 同じく、受信者の移行を無視して無差別に大量のメール (迷惑メール) を送信する

問題 2) 各種メディアはオフライン感染の元凶

パソコンは外部とのデータの授受を通じてマルウェアに感染する。外部とのデータの授受はオンライン接続による送受信とオフラインでの各種メディアの読み書きで行われる。

後者のオフライン感染は主に USB メモリ、SD カード等の各種メディアを媒体にして発生しているが、ポータブル端末の増加・普及とセキュリティ教育の不足から、今後ますますオフライン感染の機会が増加するのが恐ろしい。

次に示す某市のボランティア用 XP パソコンの感染の例はオフライン感染の恐れを物語っている。

ボランティア用のパソコン (オフライン使用) の感染

4月9日のXPサポート終了を前に、某市のボランティア用XPパソコンに最終のWindowsアップデートを行うため、自宅に3台を持ち帰った。

このボランティア用パソコンにはオンライン環境が無く、私用のUSBメモリの使用も禁止していたのでマルウェアに感染する機会は少ないと思っていた。ところがマルウェアのフルスキャンを行ったところ、「高い危険」を含む驚くほど多くのマルウェアを検出し削除した。

- ・ 使用開始して以降、初めて?のWindows Updateを実施
- ・ AVAST^{アバスト} (無料セキュリティ対策ソフト) をインストール
- ・ 各パソコンでのマルウェア検出件数: 36個、25個、74個

これはオンライン環境が無いためセキュリティ対策ソフトも無いので、一度もスキャンしていなかったことと、責任者不在とが感染発見の遅れにつながったと考える。

問題3) セキュリティ対策ソフト (リアルタイム保護) の限界

セキュリティ対策ソフトは、①リアルタイムでオンライン接続を通じたマルウェアを検知して感染を防ぐ機能、②手作業で記憶メディア (HDD、USBメモリ、SD等) をスキャン (クイック、フル、カスタム) して感染を除去する機能を持っている。

しかしこれら機能を有効にするのは、遅滞なくパターンファイルを更新して最新状態に保ち、新たに発生するマルウェアに対応しなければならない。このパターンファイル更新なくしてセキュリティ対策ソフトは無意味である。

(注) XPパソコンを全くオンライン接続しないと言うことは、セキュリティ対策ソフトを使用しないということであり、手作業でのスキャンもできないので、何らかの原因でXPパソコンが感染しても知ることも直す (マルウェアを削除する) こともできない。

思い浮かぶ唯一可能な対策は、USBメモリを用いたポータブル版のセキュリティ対策ソフト (例:Clam Win Portable : 2012/3/25 勉強会参照) でのウイルススキャンだけである。

近年は、セキュリティ対策ソフトで検知されないことをテストしてからマルウェアを配布することが多い。侵入するとセキュリティ対策ソフトを無効にしたり、パターンファイルの更新を妨げたりするマルウェアもある。

また現時点では「XPもサポートする」と表明しているセキュリティ対策ソフトも、次第にXPの使用者が減少するので、必ず近い将来XPに対するサポートを打ち切るようになる。そのため以後のXPは全くの無防備状態に陥る。

問題4) サポート終了した製品は感染率が高い

サポート終了後は新しい更新プログラムが提供されない。このため新たに発見された脆弱性は放置されたままになるので悪意のある犯罪者のチャンスである。

セキュリティ対策ソフトをすり抜ければ三番目、四番目の防御線が無く容易に侵入できるようになり、容易にマルウェアができる。そのためセキュリティ対策ソフトが追いつけない状況が増える。

悪意のある犯罪者は、サポート中のWindowsバージョン (Vista、7、8、8.1等) の脆弱性や対策の情報を基にして容易にXP用マルウェアを作成して、無防備に近いXPに攻撃してくる。

2. Windows XP から Windows 8.1 への移行手段について

2.1. Win. XP からの移行先 Windows バージョンについて

1) 移行先 (新しいパソコン)

企業における Win. XP のサポート終了に伴う移行先は、残るサポート期間が3年の Vista は考えられず、ユーザインタフェース激変のとらえ方で Win. 7 派と Win. 8.1 に別れている。

しかし個人ユーザである我々の移行先は最新 の Windows 8.1 が殆どと考える ので、この勉強会では多数派である「Win. XP から Win. 8.1 への移行」について説明する。

OS		Windows 8.1 (64bit)
システム要件	CPU	1GHz 以上
	メモリ	1GB(32bit)/2GB(64bit)
	ディスク	16GB(32bit)/20GB(64bit)
	グラフィック	MS DirectX 9

また Win. 8.1 搭載パソコンの殆どは 64bit 版であり、ディスク管理方式は GPT、ファームウェアは UEFI である。

2) 移行元 (古いパソコン)

4月9日にサポート終了になったパソコンの殆どは、ハードスペックはメモリ容量が 256MG~1GB、ディスク容量が 30~100GB 程度のハードスペックであり、ディスク管理方式は MBR、ファームウェアは BIOS である。

OS		Windows XP (32bit)
システム要件	CPU	233MHz 以上(推奨 300M)
	メモリ	64MB 以上(推奨 128M)
	ディスク	1.5GB 以上
	ビデオ	SuperVGA(800×600)以上

2.2. 移行の手段 (ツール)

Win. 8.1 内蔵の「Windows 転送ツール」は XP から Win. 8.1 へのデータ移行に対応していないので、手作業によるデータの移行しかなかった。

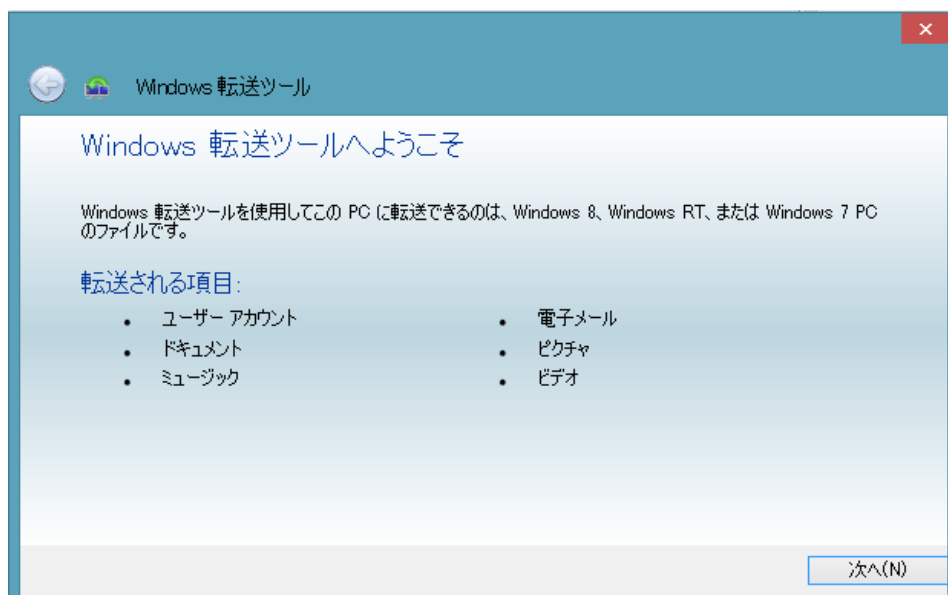
ところが 2014/07/31 まで使用が可能という条件付きながら、3月24日に日本 MS 社から「Win. XP から Win. 8.1 への移行ツールを無償提供する」との発表があり状況が一変した。

1) Win. 8.1 の「Windows 転送ツール」は Win. XP に対応しない

Win. 8.1 の「Windows システムツール」には「Windows 転送ツール」が準備されていて、これを用いると比較的簡単に、移送元 PC の「ユーザアカウント」、「ドキュメント」、「ミュージック」、「電子メール」、「ピクチャ」、「ビデオ」を移行先の Win. 8.1 に移行できる。

しかし、Win. 8.1 の「Windows 転送ツール」は、下図に示すように移行元のバージョンが、Win. 8、Win. RT、Win. 7 に制限されているので、今回の課題である XP からの移行には使えない。

(補足) Win. 8.1 は Win. 8 のアップデートとの位置付けにもかかわらず、PConline (日経 BP 社) の連載記事「すぐにできて楽しい パソコン活用自由自在」の 2013/12/24 の記事「【引越し編】XP・Vista から Windows 8 に楽して移行」によると、Win. 8 の「Windows 転送ツール」では、条件なしで XP からの移行ができたと書かれている。



この「Windows 転送ツール」の移行元バージョンの制限は上図でわかるが、他にも制限事項が隠れている可能性もある。例えば転送元 (Win. 7/RT) と転送先 (Win. 8.1) のビット数の関係 (参考) についての制限があるかどうかはわからない。

Win. 7/RT 搭載 PC の多くが 32 ビットであり、転送先 Win. 8.1 搭載 PC の殆どは 64 ビットであり、ビット数が異なるケースが多数あると考えられるので心配だが・・・。

(参考) 本資料と一緒にアップロードしている「移行チェックシート (河原)」は、河原さんから頂いたものです。

このフローチャートは XP あるいは Vista から Win. 7 に移行する場合の移行手段をフロー化したものであり、これによると転送元 Windows と転送先 Windows が同じビット数 (双方が 32 ビット、双方が 64 ビット) の場合だけ Win. 7 の「Windows 転送ツール」が使用できることを示しています。

2) 日本 MS が急きょ提供を始めた無料のデータ移行ソフト (使用期間限定)

日本 MS は 2013/03/24 に開発元の AOS テクノロジーズからライセンス提供を受けた「ファイナルパソコンデータ引越し eXPress」を、期間限定 (2014/03/24~06/30) で無償提供すると発表した。

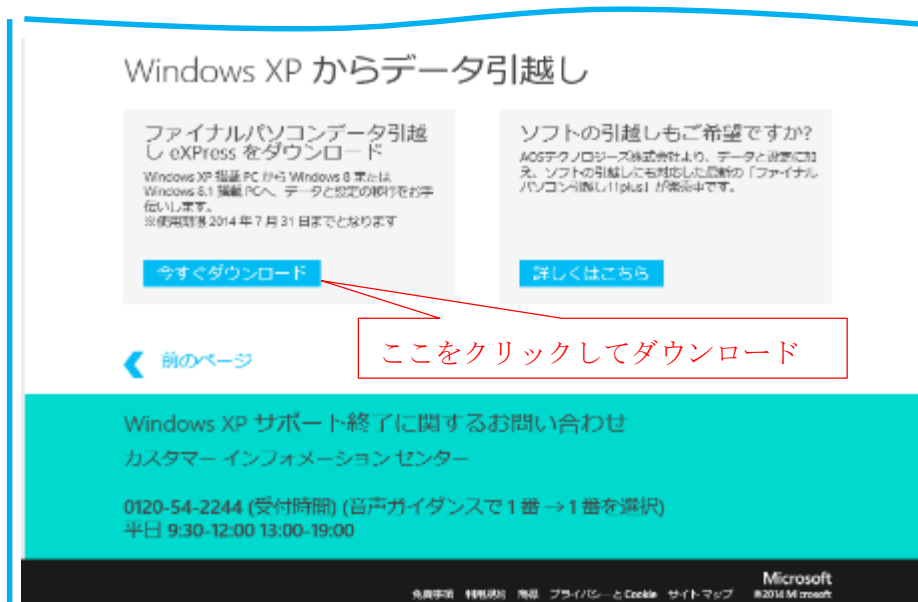
提供サイト: <http://www.microsoft.com/windows/ja-jp/xp/transfer-your-data.aspx>

なお、上記サイトからダウンロードした「ファイナルパソコンデータ引越し eXPress」の使用期限は、2014/07/31 までとなっている。

移行作業の「クイックガイド」が公開されているので、このソフトを使用して Win. XP (32bit) PC から Win. 8/8.1 (32bit/64bit) PC への移行を比較的簡単に行うことができる。

《ダウンロードサイトのイメージ》

The image shows a screenshot of a Microsoft website page. At the top, there is a navigation bar with the Windows logo and several links: "Windows XP", "Windows XP サポート終了について", "お使いの PC をアップグレードする方法", and "お好みの PC よくあるお悩みへの対応". Below this, the main heading reads "Windows XP から新しい PC へデータ引越し". Underneath the heading, there is a paragraph of text explaining the service and a "今すぐダウンロード" button. To the right of the text, there is an illustration of a computer monitor and a laptop connected by a blue arrow, symbolizing data transfer. At the bottom of the page, there is a section titled "はじめてにデータ引越しソフトが搭載または付属されているかご確認ください。" followed by a paragraph of text and a "詳しくはこちら" link.



《移行できる環境やデータ》

	移行する項目
Internet Explorer	お気に入り、ホームページ設定
メール	メール、アドレス帳、メール アカウント等
ドキュメントなどのデータ	Office ファイル、動画、音楽、画像ファイル、デジカメ写真、マイドキュメント (iTunes データを含む)
はがき作成ソフトの住所録	筆まめ、筆王、筆ぐるめ等
Windows の環境	壁紙、デスクトップ、複数ユーザ利用の場合の対応

《詳細な内容》

「ファイナルパソコンデータ引越し eXPRESS」の詳細な内容は、日本 MS の次の URL に記載されています。

URL : http://www.microsoft.com/ja-jp/windows/lifecycle/xp_eos/consumer/windows/pcmover.aspx



《簡単な使用方法・・・クイックガイド》

「ファイナルパソコンデータ引越し eXPress」の簡単な使い方に関しては、次をクリックしてPDFをダウンロード／表示してください。

[[クイックガイドのダウンロード \(PDF\)](#)] または

URL : http://download.microsoft.com/download/8/D/0/8D088B02-7F4E-46A4-B8AD-92D5FC813CE6/FinalPCData_eXPress_quickguide.pdf



「ファイナルパソコンデータ引越し eXPress」を用いたデータ移行については、左図のクイックガイドで比較的簡単に実行できるので、この勉強会での説明を省略する。

3) 手作業での移行

Win. 8.1 パソコンに添付されている「取説明書」の「Windows セットアップ」にしたがって、Win. 8.1 の設定、ネットワーク設定等を行った後に、手作業で XP から Win. 8.1 へデータの移行を行う。

前述のように、「Windows 転送ツール」は移行先 Windows が持っているものを使用して、移行元データや設定等を移行するソフトである。

移行先の Windows バージョンが持っている「Windows 転送ツール」ごとに、移行元の Windows バージョンに制限がある点、「Windows 転送ツール」毎に操作方法に差異がある点などを考えると、Windows バージョン毎の条件や操作内容の差が少ない「手作業」による移行手順を知っておけば万能かも・・・。

3. 手作業による Win. XP から Win. 8.1 へのデータ移行

Win. 8.1 付属の「Windows 転送ツール」は、XP や Vista から Win. 8.1 への移行には対応していない。

このことは Win. 8.1 の「Windows 転送ツール」のトップ画面に書かれているが、これ以外にも制限事項が隠れている可能性もある。例えば転送元 (Win. 7) と転送先 (Win. 8.1) のビット数の関係については不明である。Win. 7/RT 搭載 PC の多くが 32 ビットであり、Win. 8.1 搭載 PC の殆どは 64 ビットであり、ビット数が異なるケースが多い。

(参考) 本テキストと一緒にアップロードしている「移行チェックシート (河原)」は、河原さんから頂いた資料です。

資料は XP や Vista から Win. 7 に移行する場合の移行方法をフローチャート化したものである。この資料では転送元 (XP/Vista) と転送先 (Win. 7) が同じビット数 (両方が 32 ビット、両方が 64 ビット) の場合に限り Win. 7 の「Windows 転送ツール」が使用できることを示している。

このため XP から Win. 8.1 へのデータ移行の方法には、① 市販ソフト (AOS テクノロジーズの「ファイナルパソコン引越し 11plus」、SOURCENEXT の「おまかせ引越」等) を使う方法と② Windows 付属のソフトを流用して「手作業」で行う方法がある。

この勉強会では移行データ (ユーザデータ、メールデータ、ユーザ辞書データ) を種類毎に移行する「手作業」での手順を説明する。

3.1. データの移行のための準備

手作業で XP から Win. 8.1 へのデータ移行を行う前に、データの種類と容量を調査・確認し、移行に用いる移行用メディアを準備する。

1) 移行対象データの確認

移行対象データ		容量	移行手段
アカウントのデータ	My Documents	数 10GB	「エクスプローラ」でコピー/貼り付け
	お気に入り	数 10KB	
	デスクトップ	数 10KB	
Output Express	アドレス帳	数 10KB	「Output Express」でエクスポート/インポート
	メールデータ	数 GB	
	アカウント	数 KB	
IME	ユーザ辞書	数 10KB	IME の「辞書ツール」の「ツール」の「一覧の出力」/「テキストファイルからの登録」

2) 転送メディアの購入

データ転送元の XP 搭載のノートパソコンの IDE 接続 2.5 インチ HDD は 30GB~160GB であり、多くは 30GB~80GB である。このため XP パソコンからのデータ移行に使うメディアとしては 32GB の USB メモリ^(※1) で十分と考える。万一写真等のデータが多く 32GB を超える場合は、分割して対応できる。

移行先の Win. 8.1 搭載のノートパソコンでバックアップ用あるいは内臓 HDD^(※2) 故障時の予備等としての使用を考えるなら、1TB の SATA 接続 2.5 インチ HDD^(※3) を準備する。

(※1) 2014.4.17 現在の 32GB の USB メモリ (東芝 UHYBS 32GH) の「価格コム」での最安値 (送料、代引込) は 1,892 円

(※2) 最近の Win. 8.1 搭載のノートパソコンの HDD は 500GB~1TB が殆どである

(※3) 2014.4.17 現在の 1TB の HDD (東芝 MQ01ABD100) の「価格コム」での最安値 (送料、代引込) は 7,028 円であった。

この HDD を装着する HDD ケース (例: ロジテック製 LHR-PGGU2) は、添付されているミニドライバを用いネジ 1 本で装着できる。電量販店 (コジマ/ジョーシン等) で 1,000 円前後である。



3.2. XP パソコンから移行データを USB メモリにコピーする

ここでは、XP パソコンに保管している移行データ (ユーザデータ、メールデータ、ユーザ辞書データ) を手作業で USB メモリにコピーする手順を説明する。

1) ユーザデータをアカウントから USB メモリへコピー

システムドライブ (C:) の「Documents and Settings」フォルダ内には、コンピュータを使用するユーザ (アカウント) 毎にデータ用のフォルダが作られている。しかしアカウントを追加作成することはまれであり、殆どのパソコンは アドミニストレータ Administrator (コンピュータ管理者) が唯一のユーザ (アカウント) になっている。

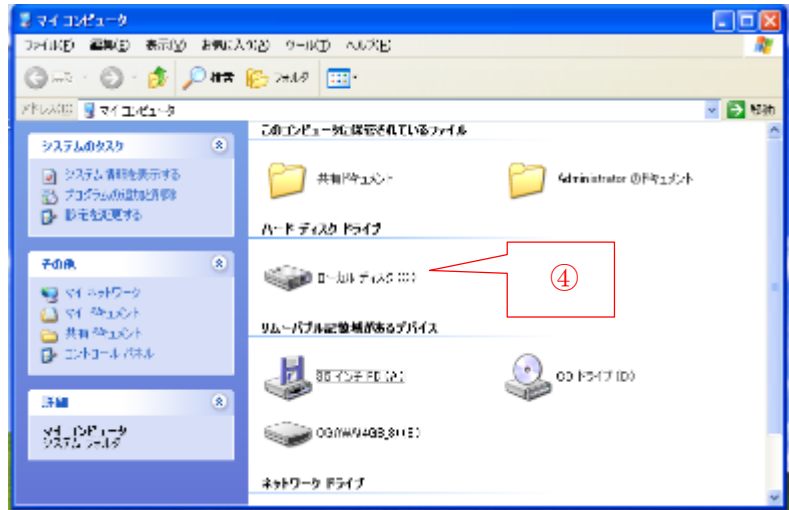
ここでは、パソコンのユーザ (アカウント) が Administrator だけと仮定して、Administrator フォルダに保存されている次のユーザデータを USB メモリにコピーする手順を説明する。

- My Documents
- お気に入り
- デスクトップ

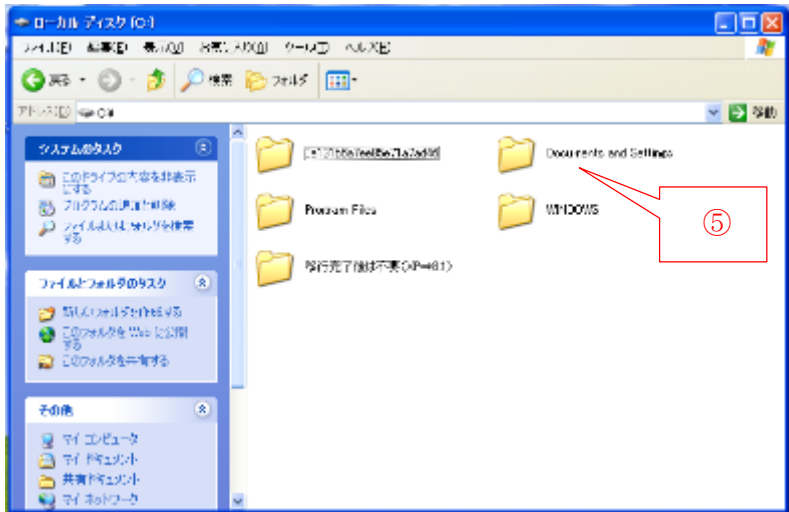
【手順】

- ① 移行用 USB メモリを接続
- ② 移行用 USB メモリ内に「Administrator」フォルダを作成する
- ③ [スタート] → [マイコンピュータ] とクリックし、「マイコンピュータ」画面を表示

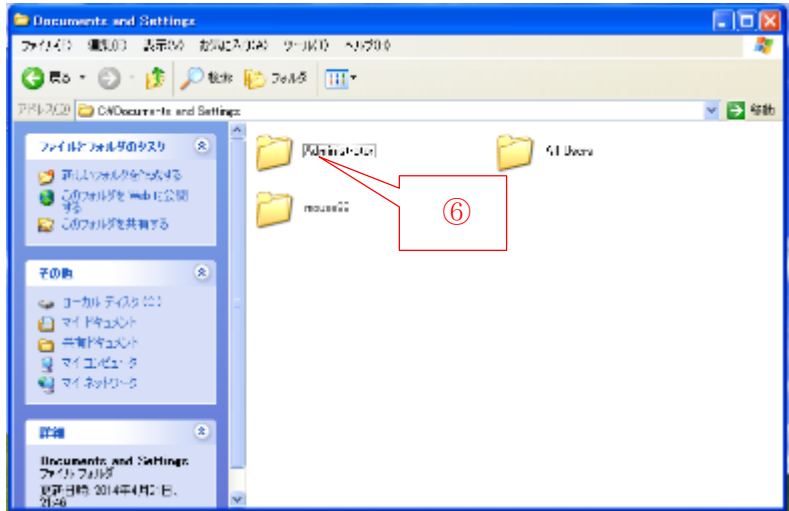
- ④ ローカルディスク (C:) をダブルクリックして、
「ローカルディスク (C:)」画面を表示



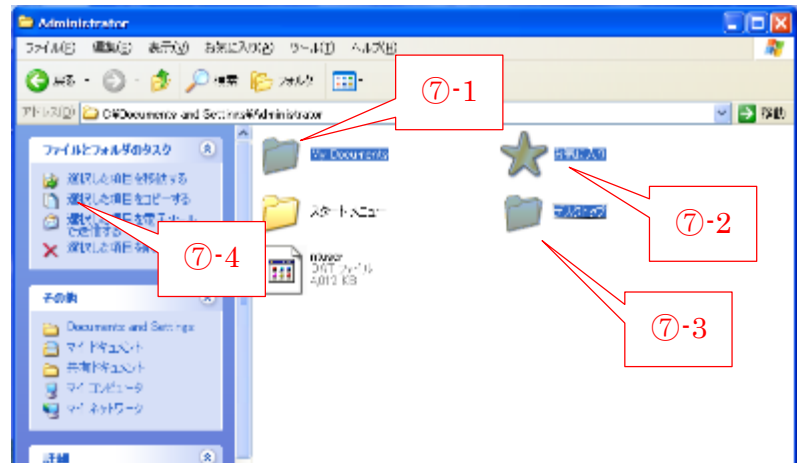
- ⑤ 「Documents and Settings」をダブルクリックして、
「Documents and Settings」画面を表示



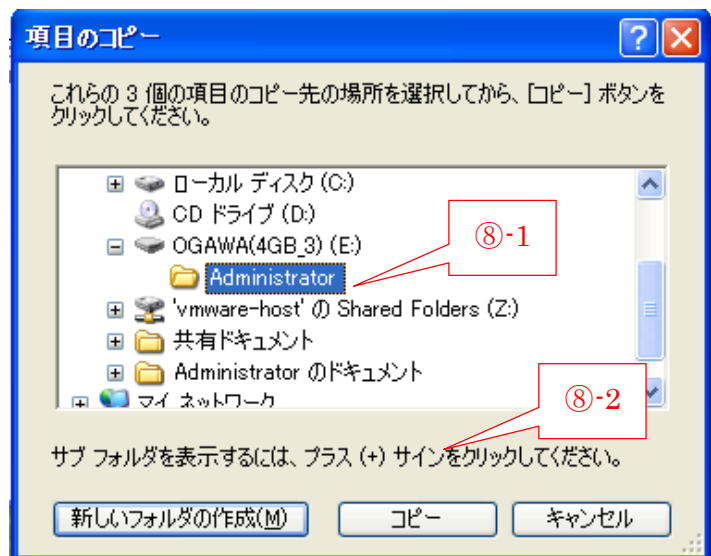
- ⑥ 「Administrator」をダブルクリックして、
「Administrator」画面を表示



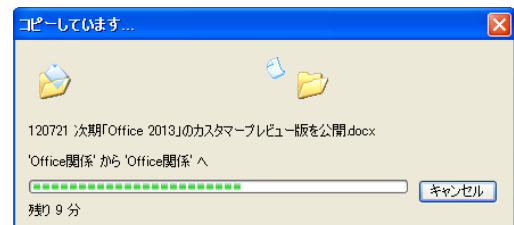
- ⑦ [CTRL] キーを押した状態で、
[My Documents] フォルダ、
[お気に入り] フォルダ、
[デスクトップ] フォルダをクリックし選択した後、
「ファイルとフォルダのタスク」
メニューの「選択した項目をコピーする」をクリックして、
「項目のコピー」画面を表示



- ⑧ 移行用 USB メモリ内のユーザデータ
フォルダ（例：Administrator）をク
リックし選択した後、
[コピー] をクリックすると
コピーが開始されて、「コピーをしています」画面を表示



- ⑨ コピーが終了したら画面を閉じて処理を終る

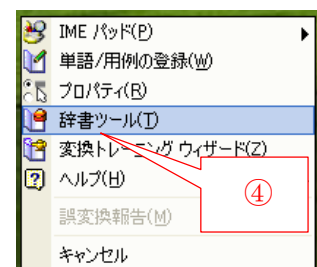


2) ユーザ辞書データを IME から USB メモリへコピー

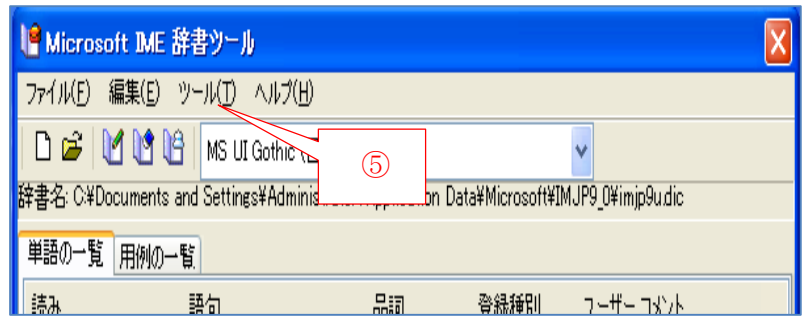
忘れがちな処理であるが、Win. XP パソコンを使用して長年蓄積してきた「ユーザ辞書」の移行も大切な処理である。

【手順】

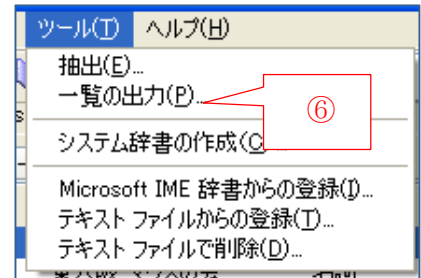
- ① 移行用 USB メモリを接続
- ② 移行用 USB メモリ内に「ユーザ辞書」フォルダを作成する
- ③ [言語バー] の [IME (ツール)] をクリックしてメニューを表示
- ④ [辞書ツール] をクリックして、「Microsoft IME 辞書ツール」画面を表示



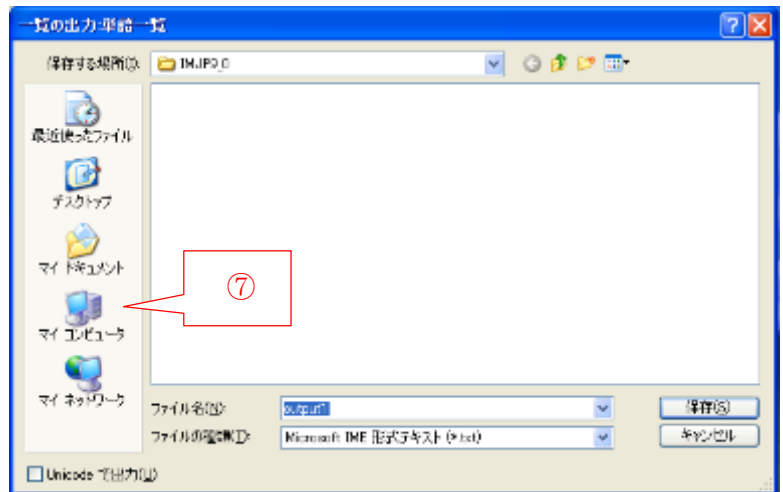
- ⑤ [ツール] をクリックして、
メニューを表示



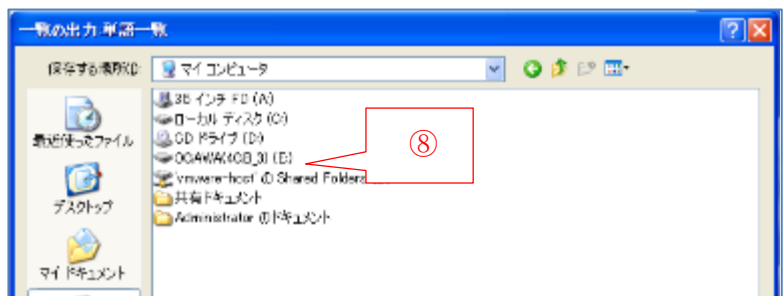
- ⑥ [一覧の出力] をクリックして、「一覧の出力:単語一覧」画面を
表示



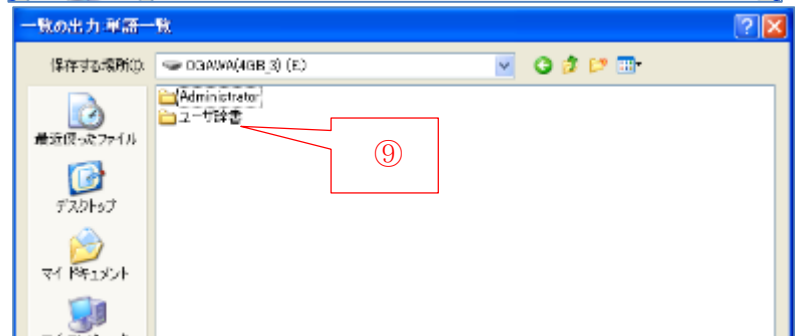
- ⑦ [マイコンピュータ] をクリックして、
マイコンピュータ内のドライブを表示



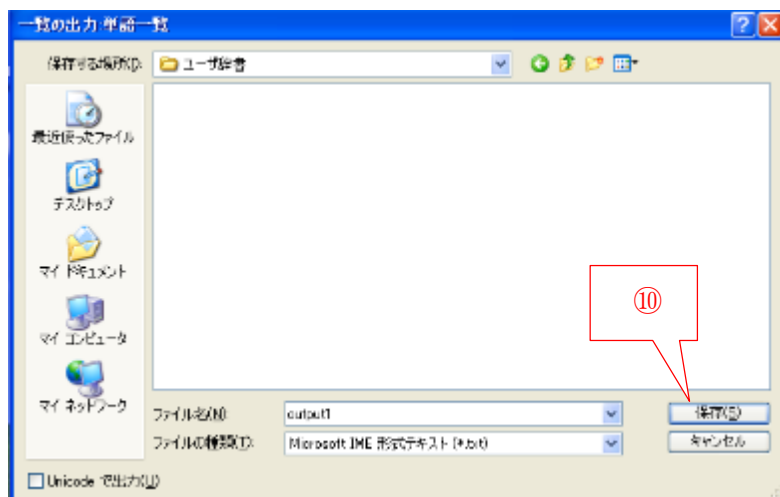
- ⑧ 移行用 USB メモリをダブルクリ
ックし開いて、
フォルダ/ファイルの一覧を表示



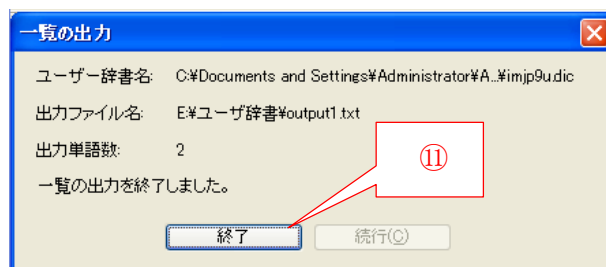
- ⑨ 保存先フォルダ (例: ユーザ辞
書) をダブルクリックして開く



- ⑩ [保存] をクリックして、ユーザ辞書の保存



- ⑪ 「…出力を終了…」画面が表示されたら、[終了] をクリックして処理を終る



3) メールデータを Outlook Express から USB メモリへコピー

【重要】新旧パソコンでのメールデータの抜けを防止

古いパソコン (Win. XP) でメールデータの USB メモリへのコピー開始から、新しいパソコン (Win. 8.1) へのメールデータの移行が終了するまで、新旧パソコンのネット接続を切る (オフライン状態にする) こと。

これにより、新旧パソコンでメールデータの抜けを防止する。

ここでは、XP の Outlook Express が保管している次に示すメールデータを移行用 USB メモリへコピーする手順を説明する。

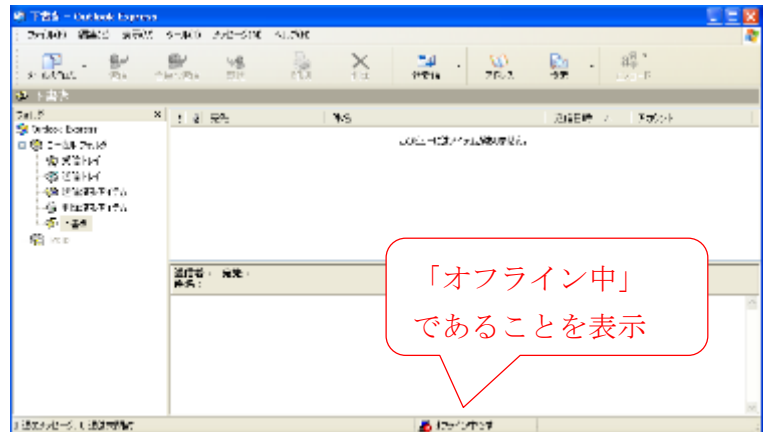
- メールアカウント
- アドレス帳
- メールデータ

【手順】

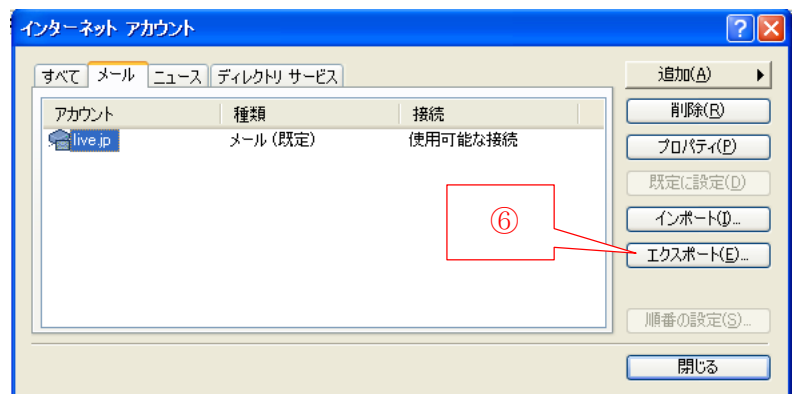
- ① 移行用 USB メモリを接続
- ② 移行用 USB メモリ内に「Outlook Express」フォルダを作成する

*** メールアカウントのコピー ***

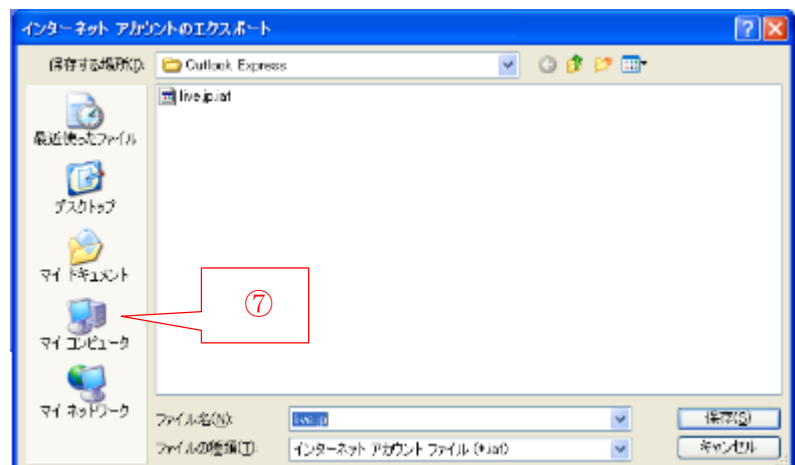
- ③ Outlook Express を起動
- ④ [ファイル] → [オフライン作業] とクリックしてオフライン状態にする
- ⑤ [ツール] → [アカウント] とクリックして、「インターネットアカウント」画面を表示



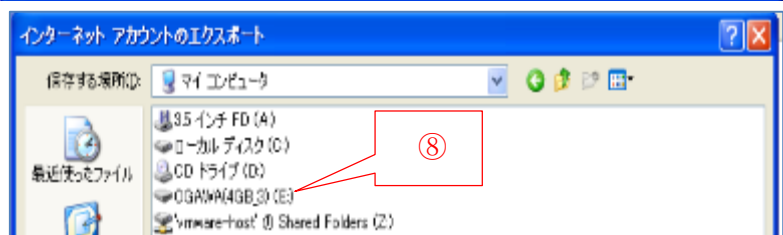
- ⑥ [メール] タブを表示させ、[エクスポート] をクリックして、「インターネットアカウントのエクスポート」画面を表示



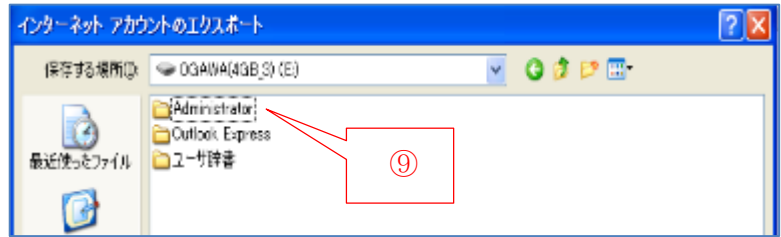
- ⑦ [マイコンピュータ] をクリックして、マイコンピュータ内のドライブを表示



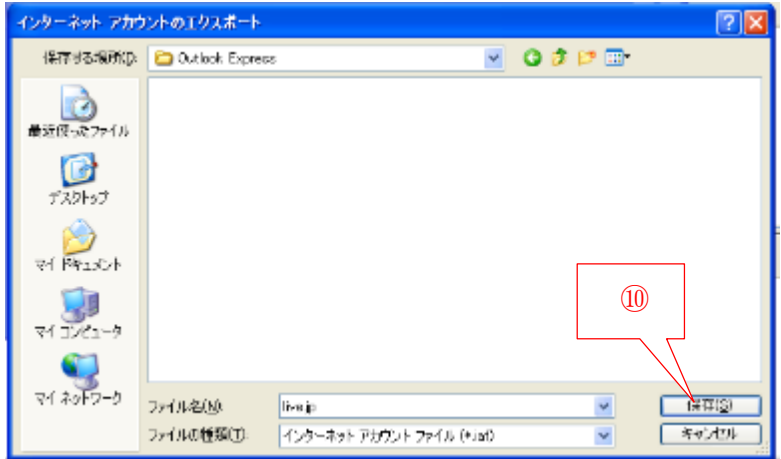
- ⑧ 移行用 USB メモリをダブルクリックし開いて、フォルダ/ファイルの覧を表示



- ⑨ 保存先フォルダ（例：Outlook Express）をダブルクリックして開く



- ⑩ [保存] をクリックして、メールアカウントを保存

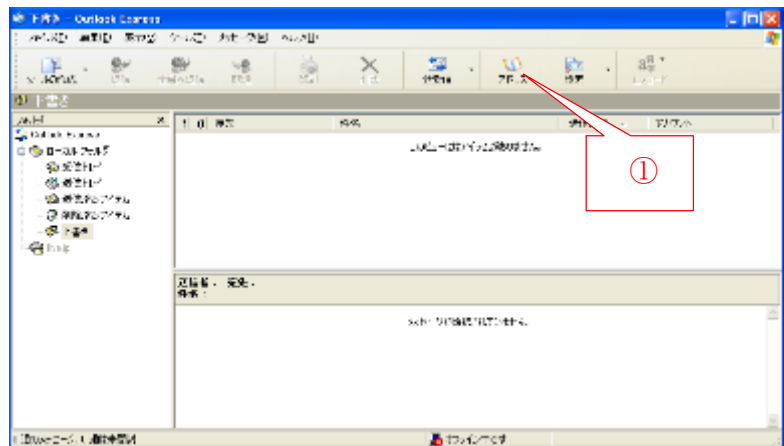


- ⑪ 保存が終了したら「インターネット アカウント」画面を閉じる

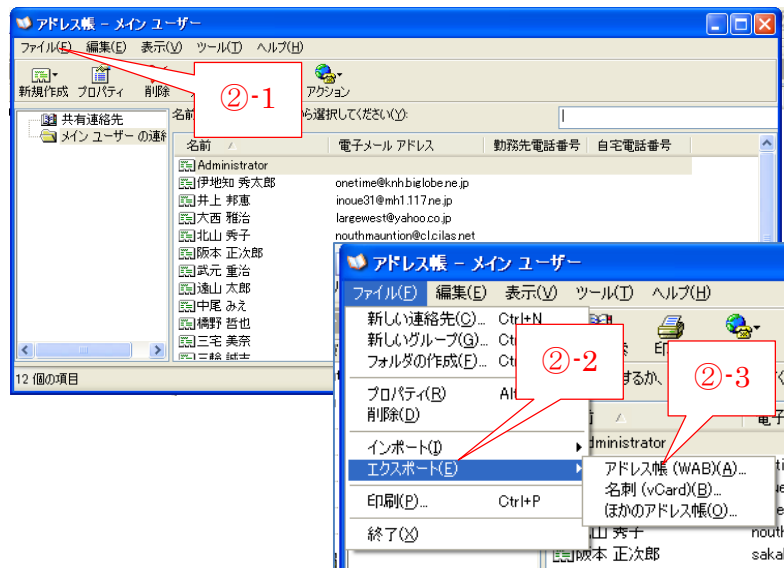
*** アドレス帳のコピー ***

【手順】

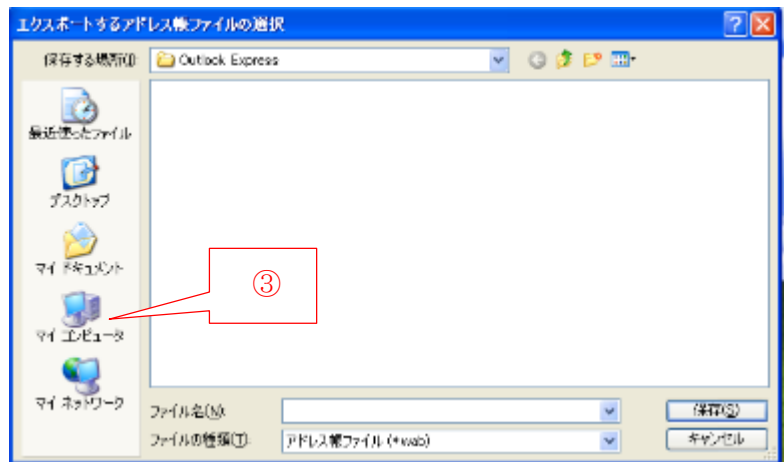
- ① [アドレス帳] をクリックして、「アドレス帳」を表示



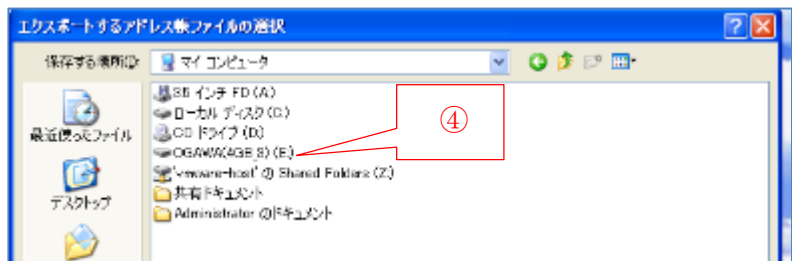
- ② [ファイル] → [エクスポート] → [アドレス帳 (WAB)] とクリックして、「エクスポートするアドレス帳ファイルの選択」画面を表示



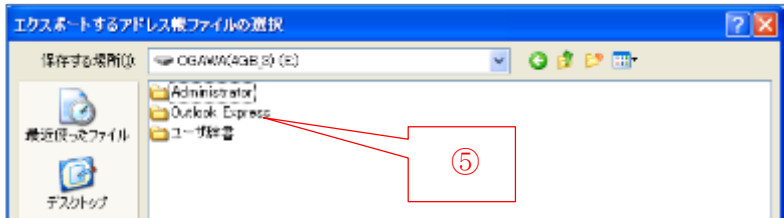
- ③ [マイコンピュータ]をクリックして、
マイコンピュータ内のドライブを表示



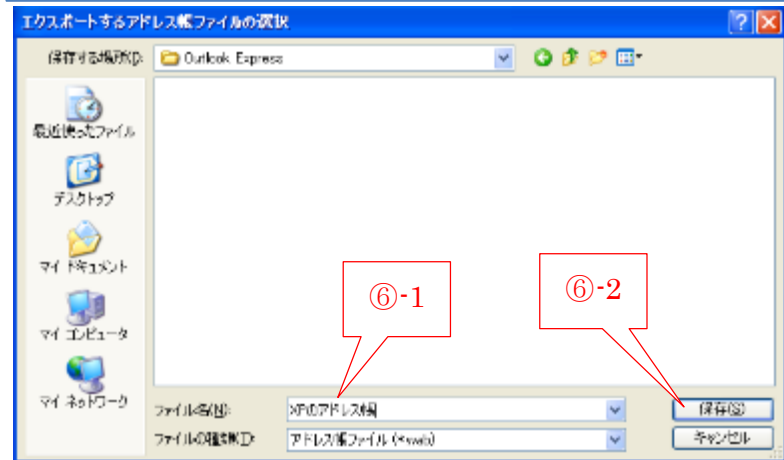
- ④ 移行用 USB メモリをダブルクリックし開いて、フォルダ／ファイルの一覧を表示



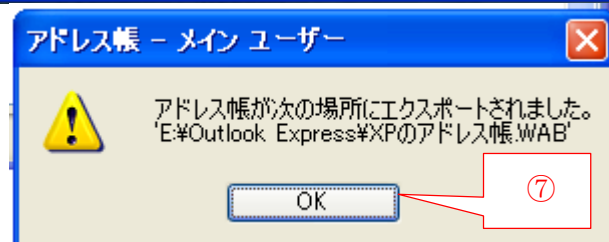
- ⑤ 保存先フォルダ（例：Outlook Express）をダブルクリックして開く



- ⑥ [ファイル名] 欄にファイル名（例：XP のアドレス帳）を入力した後、
[保存] をクリックして、アドレス帳を保存



- ⑦ 「…エクスポートされました」が表示されたら、
[OK] をクリックして終了

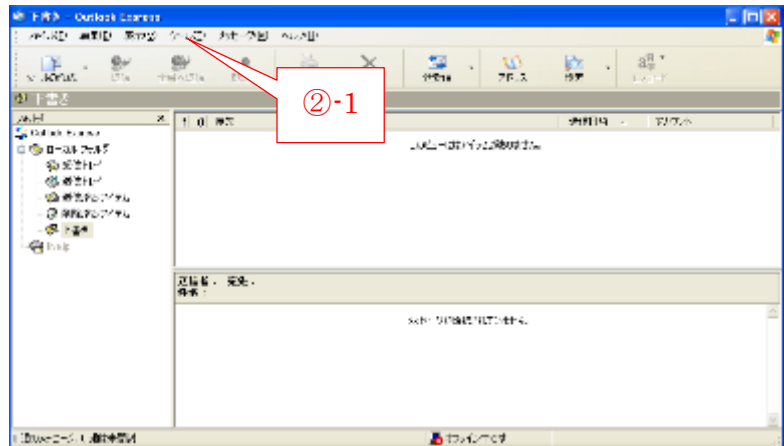


*** メールデータのコピー ***

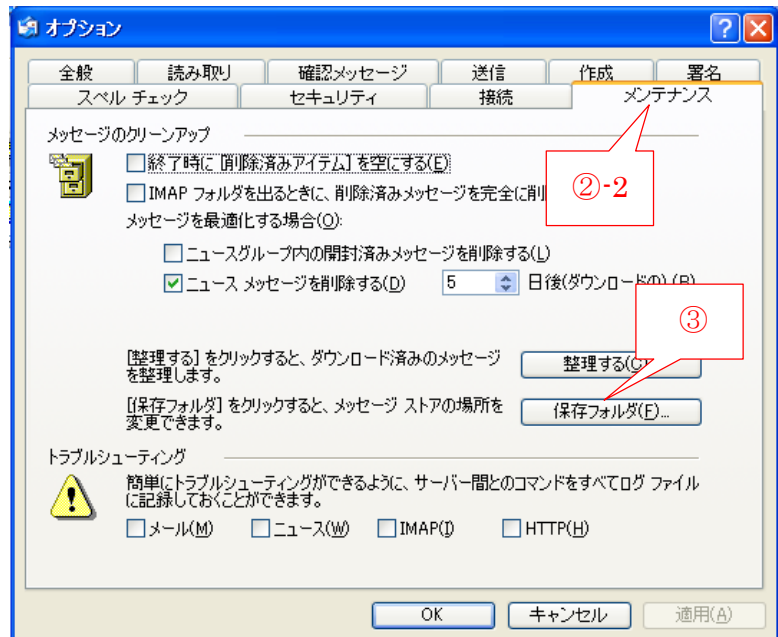
【手順】

- ① 移行用 USB メモリの「Outlook Express」フォルダ内に「メールアドレス」フォルダを作成

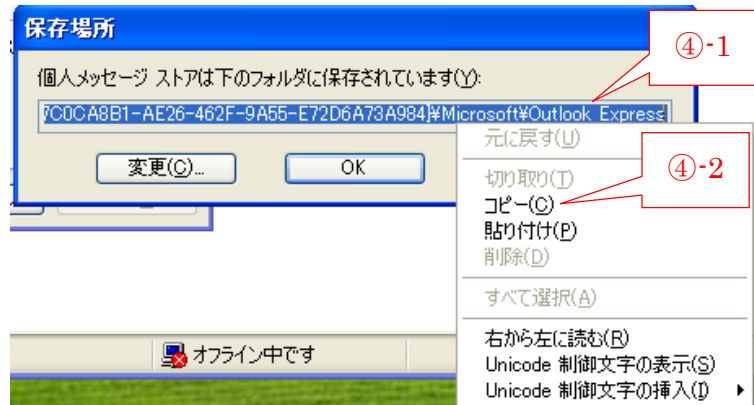
- ② [ツール] → [オプション]
→ [メンテナンス] とクリックして、
「メンテナンス」画面を表示



- ③ [保存フォルダ] をクリックして、
「保存場所」画面を表示



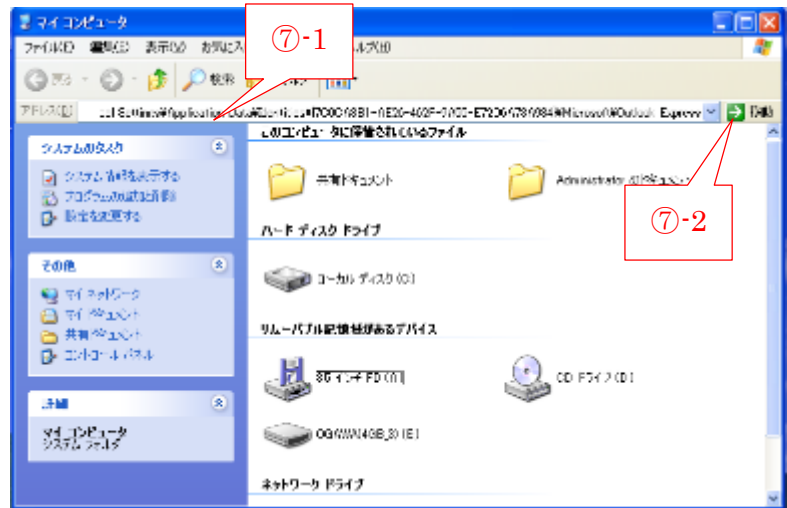
- ④ 表示されたメールデータ保存フォルダの場所 (パス) をドラッグして選択した後、
右クリックして表示したメニューの
[コピー] をクリックして、取り込む



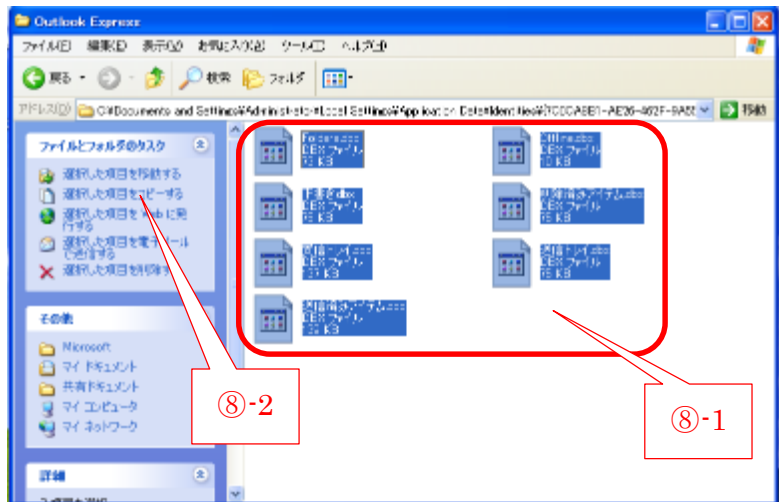
取り込んだパス : C:\Documents and Settings\Administrator\Local Settings\Application
Data\Identities\{7C0CA8B1-AE26-462F-9A55-
E72D6A73A984}\Microsoft\Outlook Express

- ⑤ 起動しているソフトを閉じる
⑥ [スタート] → [マイコンピュータ] をクリックして、「マイコンピュータ」画面を表示

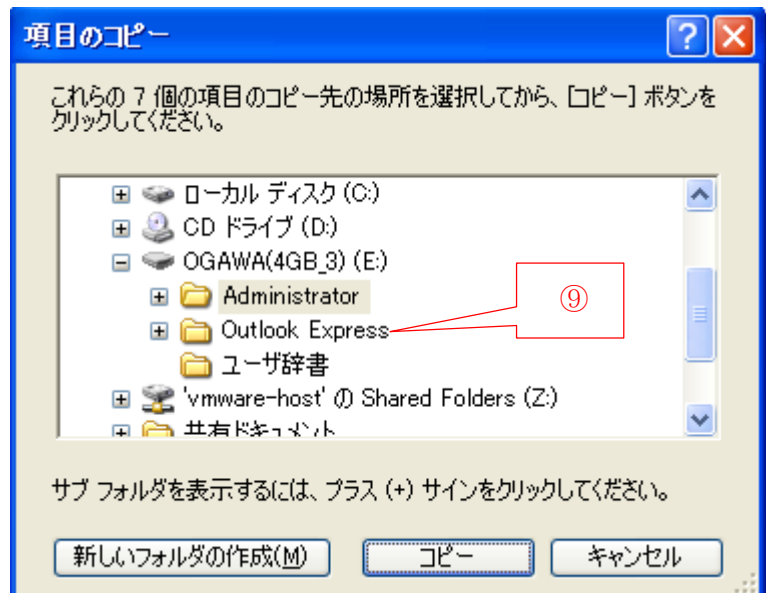
- ⑦ [アドレス] 欄をドラッグし選択した後、
右クリック→ [貼り付け] をクリックして、
コピーしておいたパスを貼り付けた後、
[→ (移動)] をクリックして、
メールデータの保存フォルダを開く



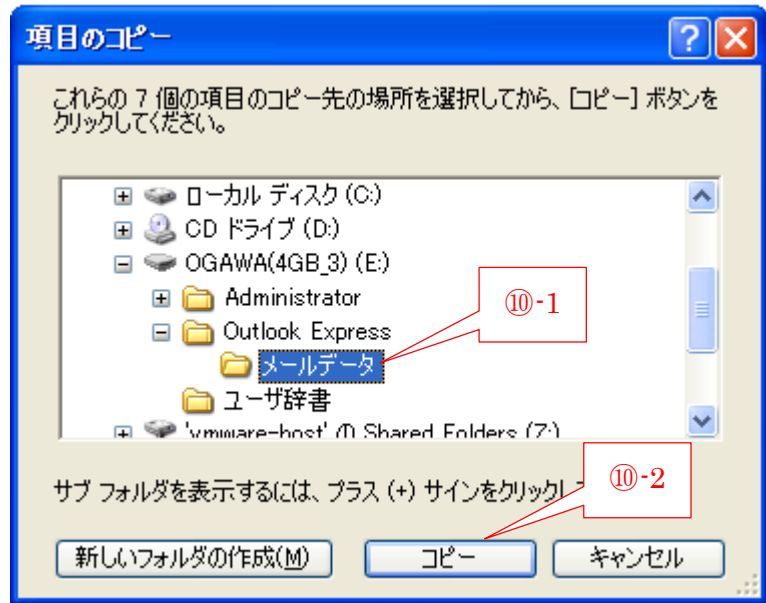
- ⑧ 表示されたファイルを選択した後、
「ファイルとフォルダのタスク」
メニューの [選択した項目をコピーする] をクリックして、
「項目のコピー」画面を表示



- ⑨ [Outlook Express] フォルダの
田をクリックし選択して、
内部のフォルダを表示



- ⑩ [メールデータ] フォルダをクリックし選択した後、
[コピー] をクリックして、コピー
- ⑪ 一瞬、進捗画面を表示するが、すぐに終了
- ⑫ 画面を閉じて処理を終了



3.3. USB メモリの移行データを Win. 8.1 パソコンに移行する

ここでは、XP パソコンで移行用 USB メモリにコピーした移行データ（メールデータ、ユーザ辞書データ、ユーザデータ）を、手作業で Win. 8.1 パソコンへ移行する手順を説明する。

1) メール関係データを USB メモリから Live メールへ移行

【重要】新旧パソコンでのメールデータの抜けを防止

古いパソコン（XP）でメールデータを USB メモリへコピー開始してから、新しいパソコン（Win. 8.1）へのメールデータの移行が終了するまで、新旧パソコンのネット接続を切る（オフライン状態にする）こと。

これにより、新旧パソコンでメールデータの抜けを防止する。

ここでは、移行用 USB メモリへコピーした、次のメールデータを Win. 8.1 パソコンの Windows Live メールへ移行する手順を説明する。

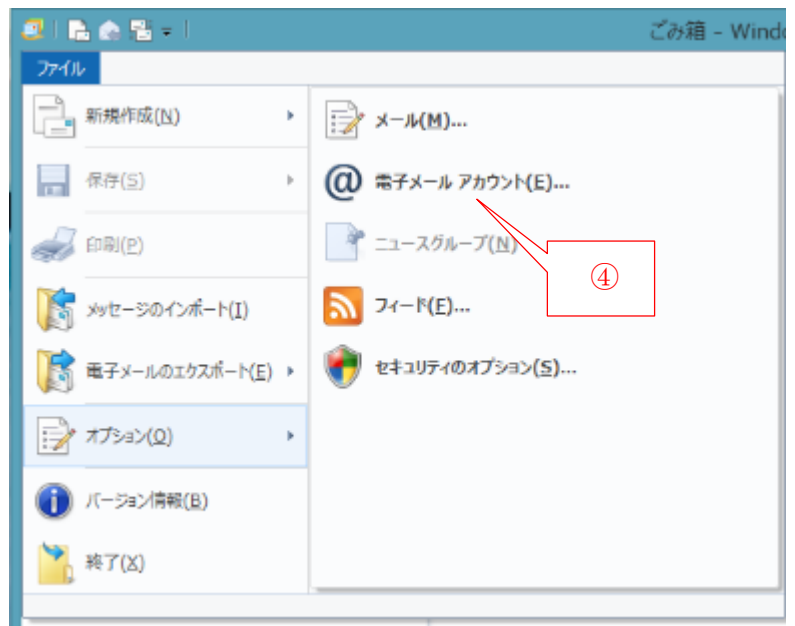
- メールアカウント
- アドレス帳
- メールデータ

*** メールアカウントの移行 ***

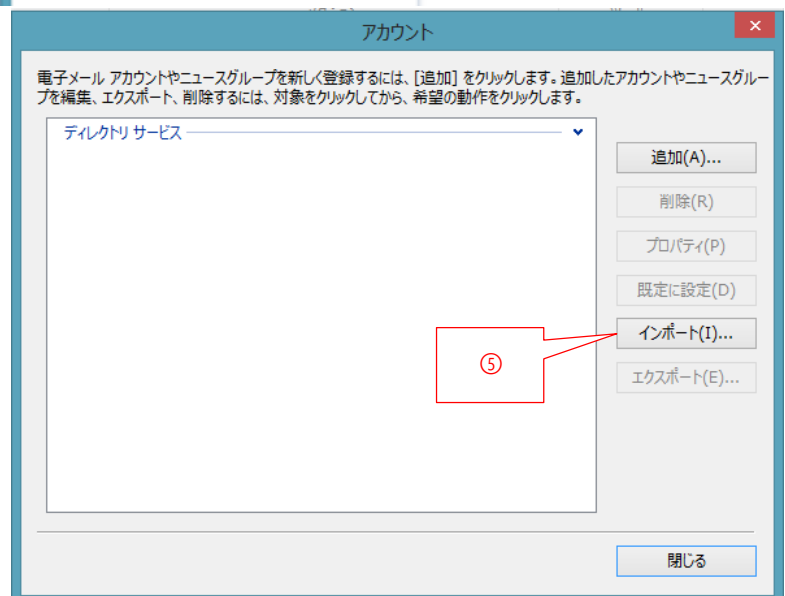
【手順】

- ① 移行用 USB メモリを接続
- ② Windows Live メールを起動
- ③ [ファイル] → [オプション] とクリックして、メニューを表示

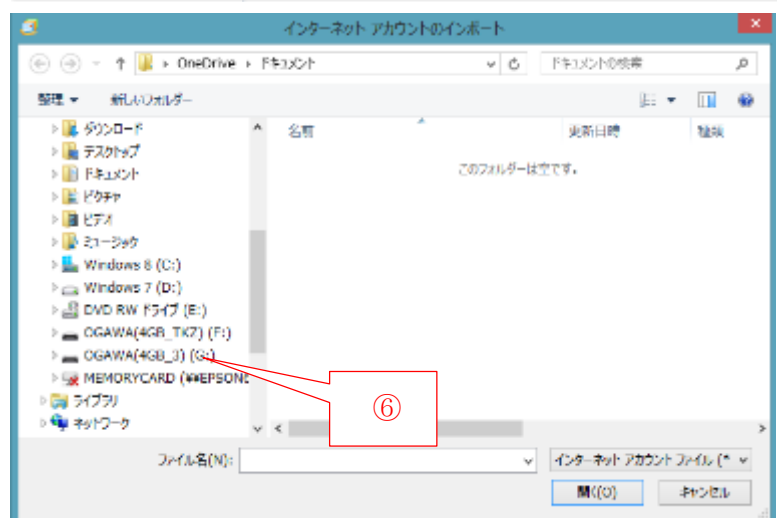
- ④ [電子メールアカウント] をクリックして、「アカウント」画面を表示



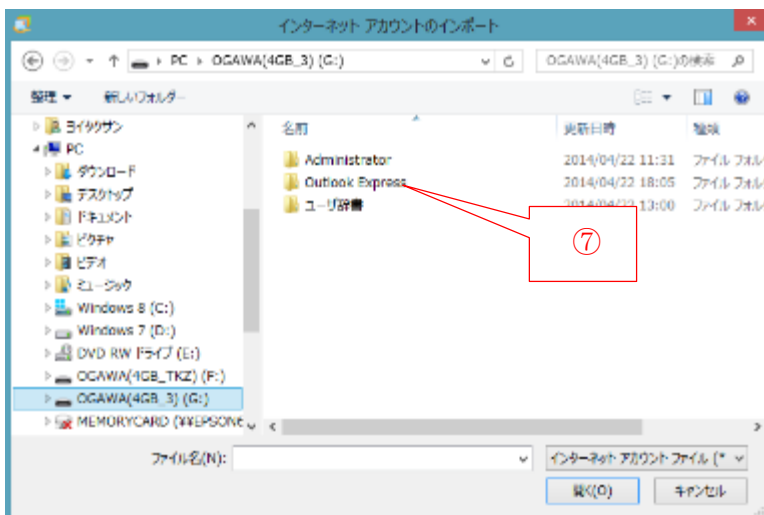
- ⑤ [インポート] をクリックして、「インターネットアカウントのインポート」画面を表示



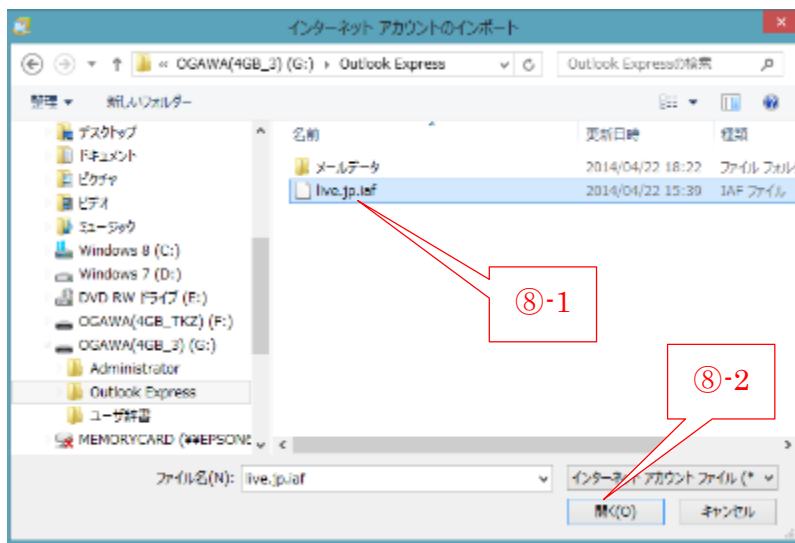
- ⑥ 移行用 USB メモリをクリックし開く



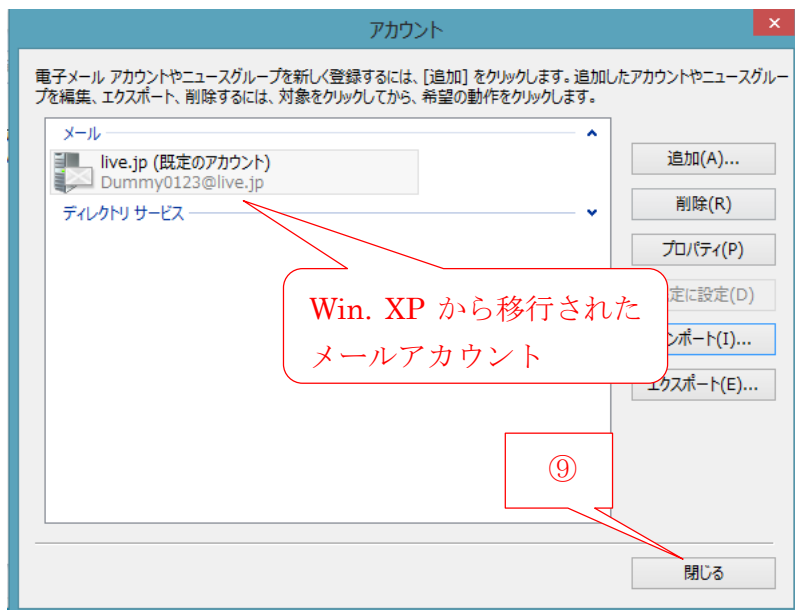
- ⑦ メールデータ用フォルダ（例：Outlook Express）をダブルクリックして開く



- ⑧ ファイル拡張子が「.iaf」のメールアカウントファイルををクリックし選択した後、
[開く] をクリックして、
アカウントをインポートする



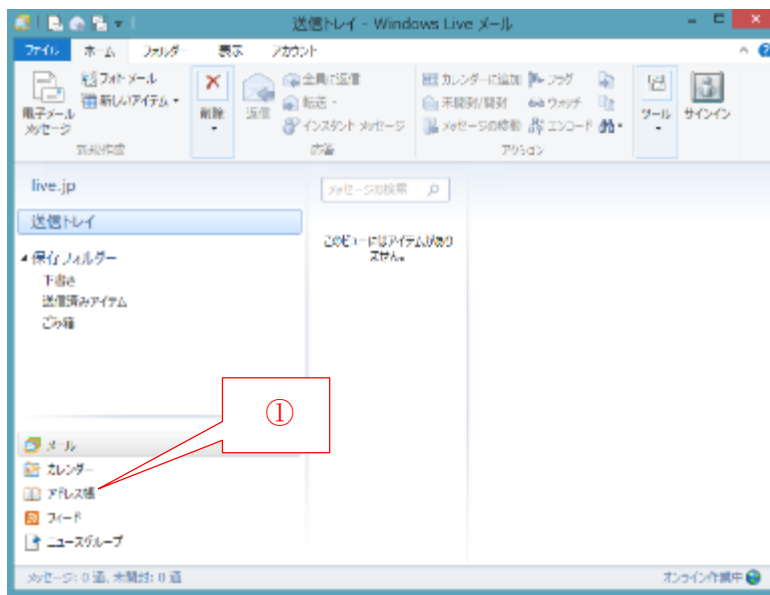
- ⑨ [閉じる] をクリックして、画面を閉じる



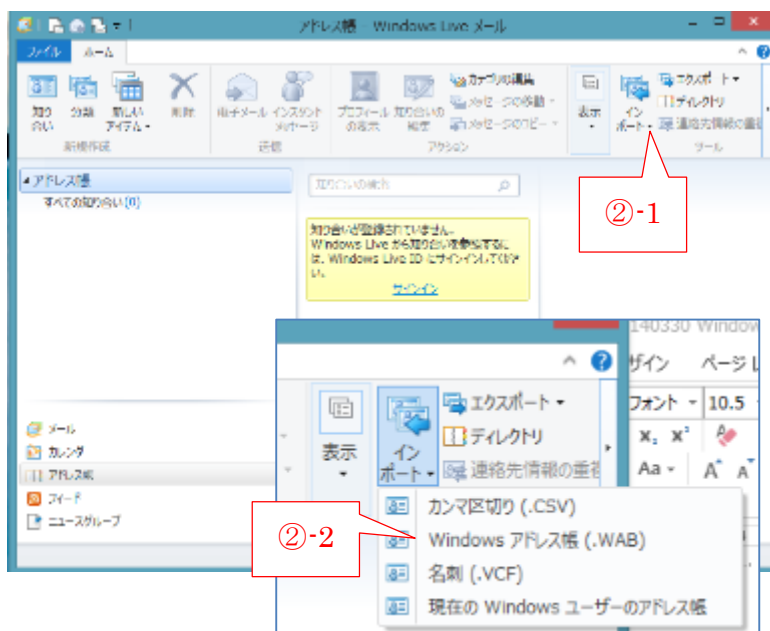
*** アドレス帳の移行 ***

【手順】

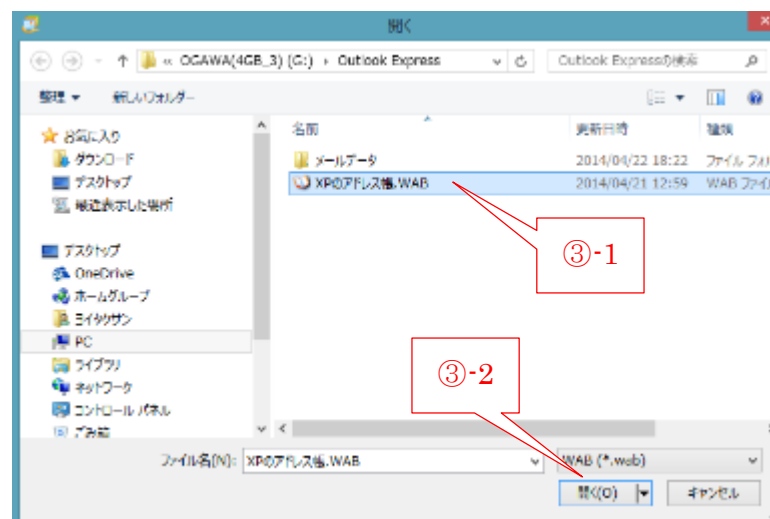
- ① 「アドレス帳」をクリックして、「アドレス帳」画面を表示



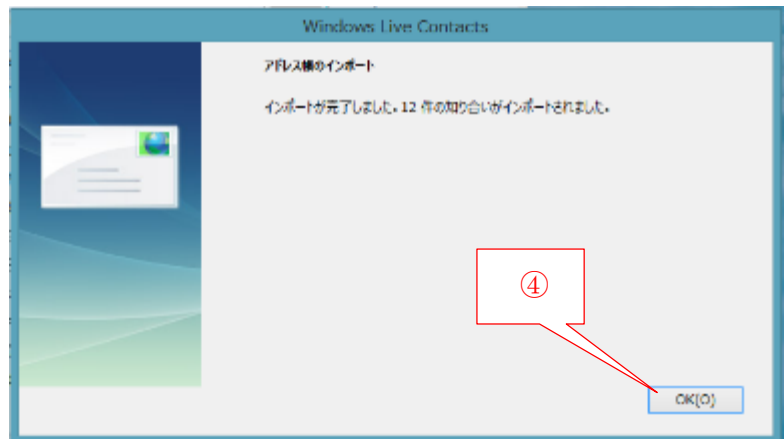
- ② 「インポート」の▼をクリックし表示したメニューから、「Windows アドレス帳 (.WAB)」をクリックして、「開く」画面を表示



- ③ アドレス帳（例：XP のアドレス帳.WAB）をクリックし選択した後、「開く」をクリックして、アドレス帳をインポート



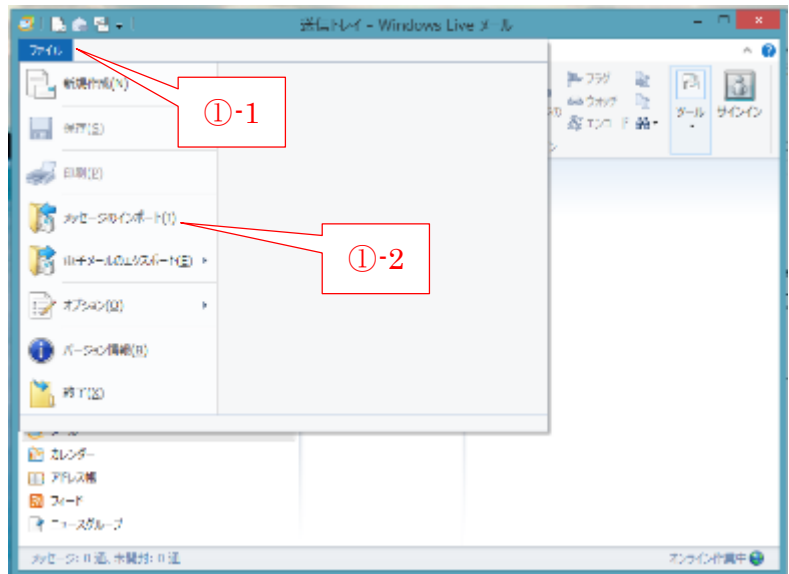
- ④ 「…インポートされました」画面が表示されたら、
[OK] をクリックして、画面を閉じる



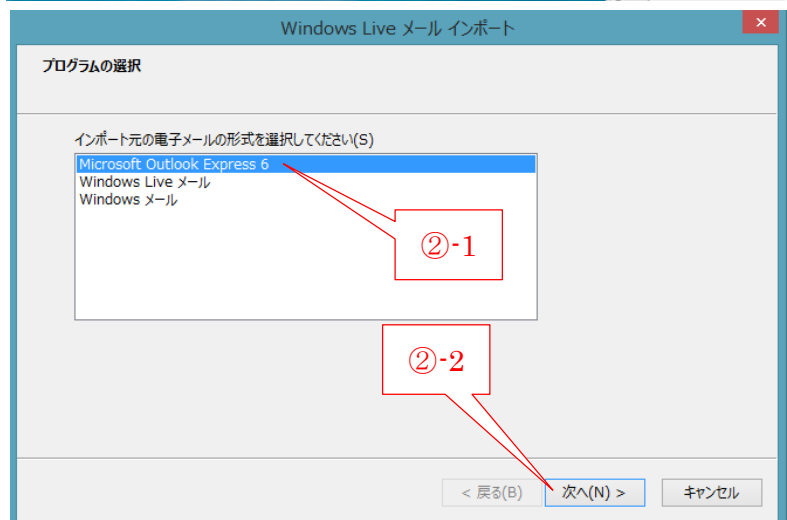
*** メールデータの移行 ***

【手順】

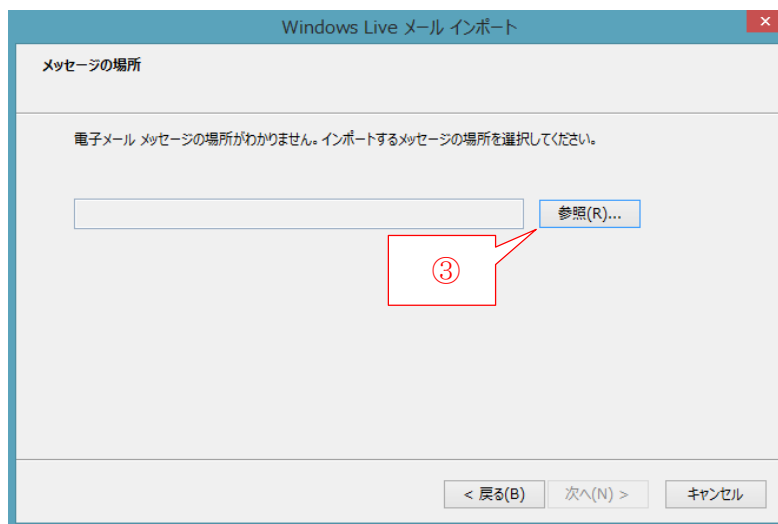
- ① [ファイル]
→ [メッセージのインポート] と
クリックして、
「Windows Live メール
のインポート (プログラムの選
択)」画面を表示



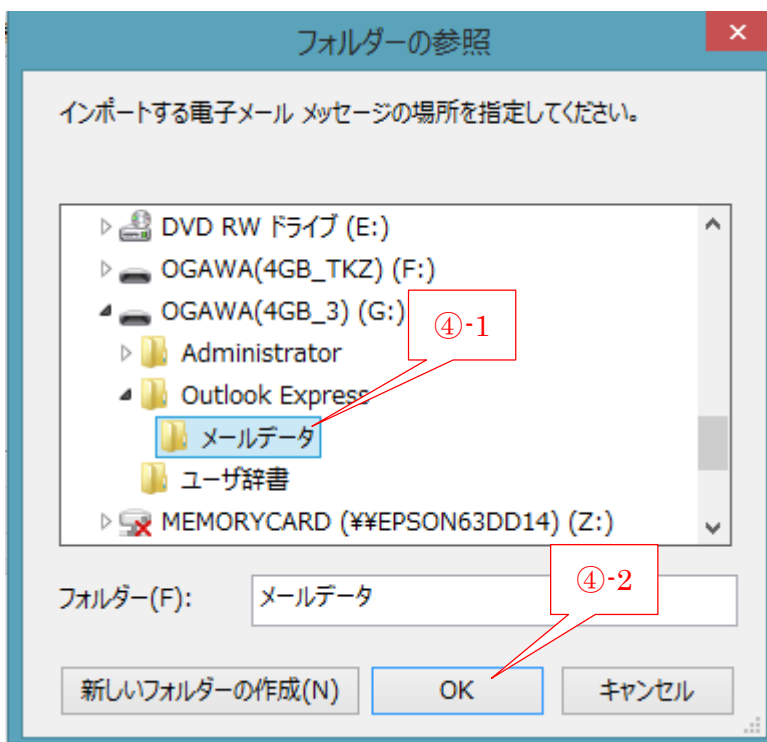
- ② [Microsoft Outlook Express 6]
をクリックした後、
[次へ] をクリックして、
「Windows Live メール
のインポート (メッセージの場
所)」画面を表示



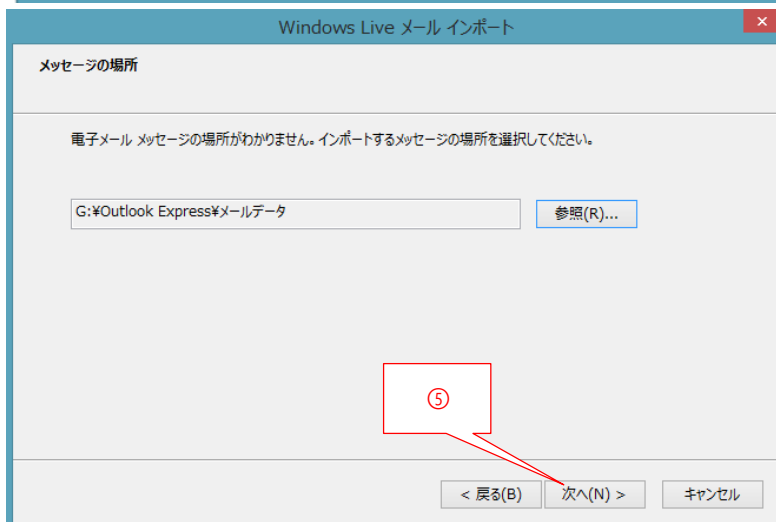
- ③ [参照] をクリックして、
「フォルダの参照」画面を表示



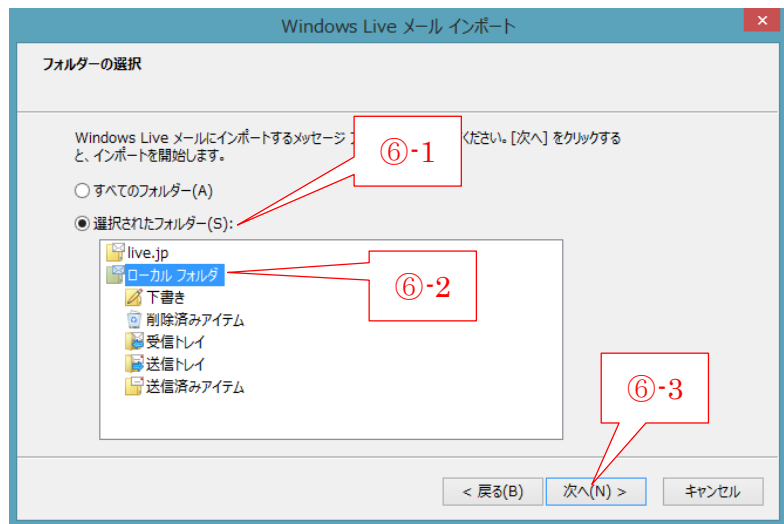
- ④ 移行用 USB メモリ内の [Outlook Express] フォルダにある [メールデータ] フォルダをクリックした後、
[OK] をクリックして、
「Windows Live メールのインポート (メッセージの場所)」画面に戻る



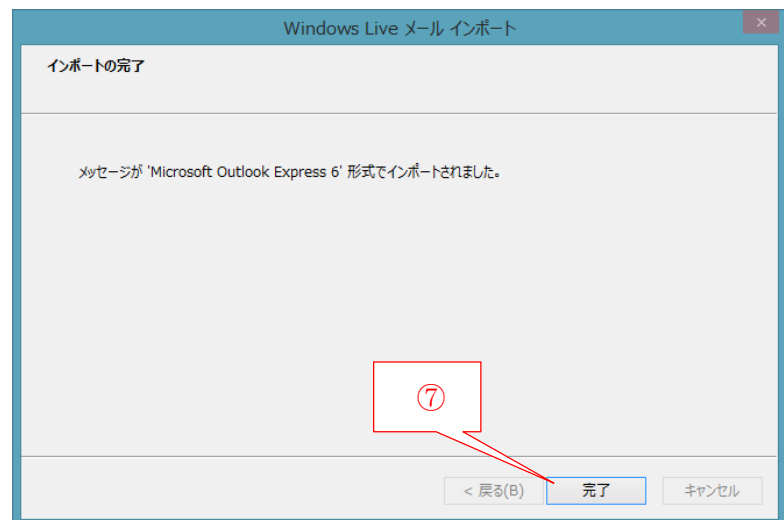
- ⑤ [次へ] をクリックして、
「Windows Live メールのインポート (フォルダの選択)」画面を表示



- ⑥ [選択されたフォルダ]
→ [ローカルフォルダ] とクリッ
クした後、
[次へ] をクリックしてインポー
ト



- ⑦ 「…インポートされました」画面
が表示されたら、
[完了] をクリックして画面を閉
じる



2) ユーザ辞書データを USB メモリから IME へ移行

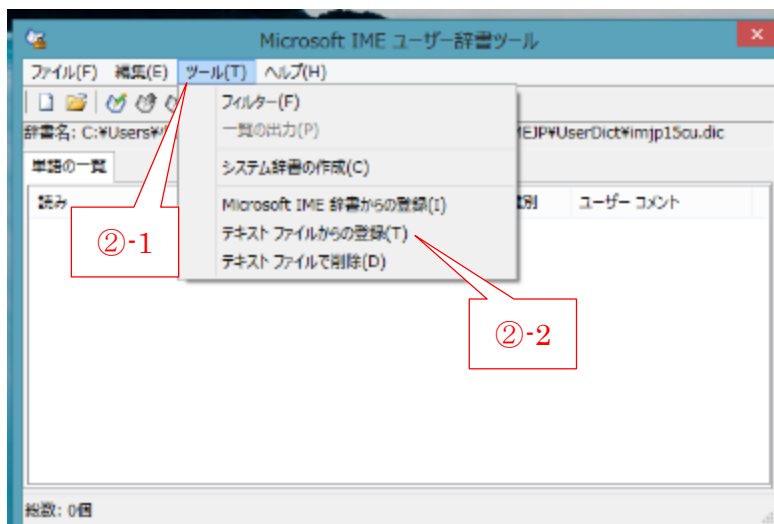
ここでは、XP パソコンの IME から移行用 USB メモリへコピーした、ユーザ辞書を Win. 8.1 パソコンの IME へ移行する手順を説明する。

【手順】

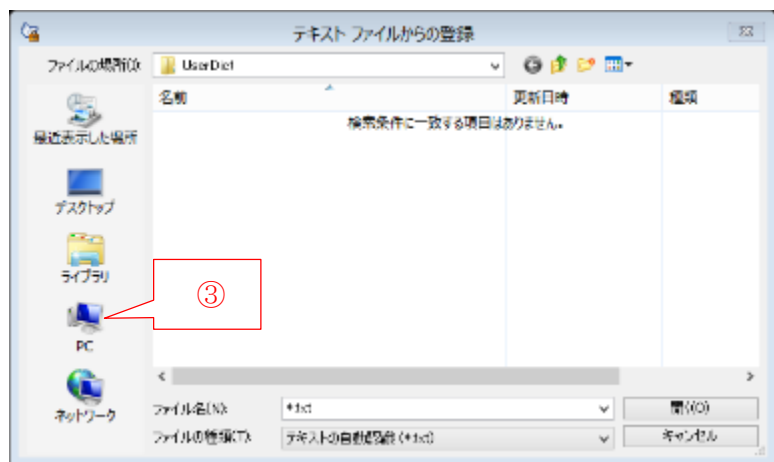
- ① 画面右下の **あ** (IME アイコン) を右クリックしメニュー
を表示した後、
[ユーザ辞書ツール] をクリックして、
「Microsoft IME ユーザ辞書ツール」画面を表示



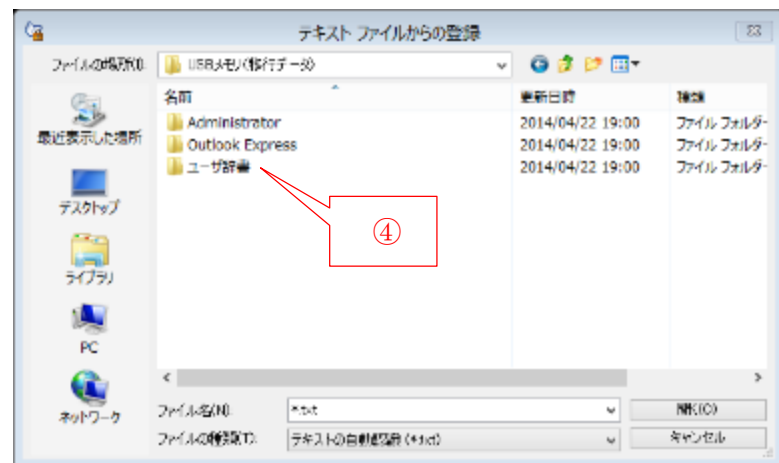
- ② 「ツール」をクリックしメニューを表示した後、
「テキストファイルから登録」をクリックして、
「テキストファイルからの登録」画面を表示



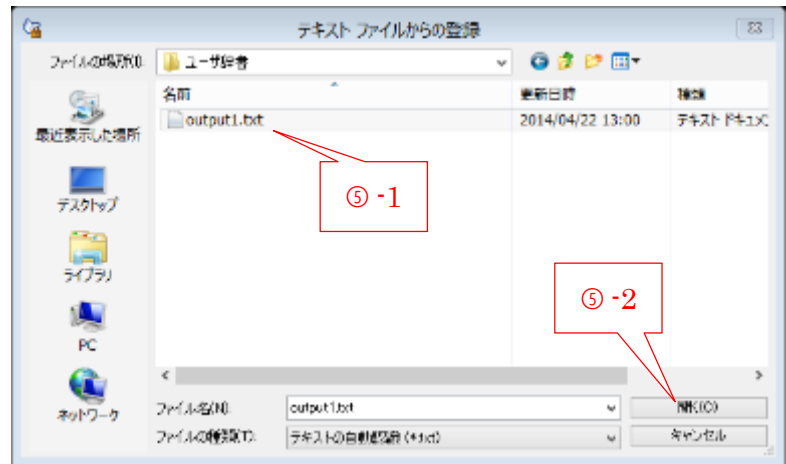
- ③ 「PC」をクリックして表示したドライブから移行用 USB メモリを選択した後、
フォルダをたどって「ユーザ辞書」フォルダを表示



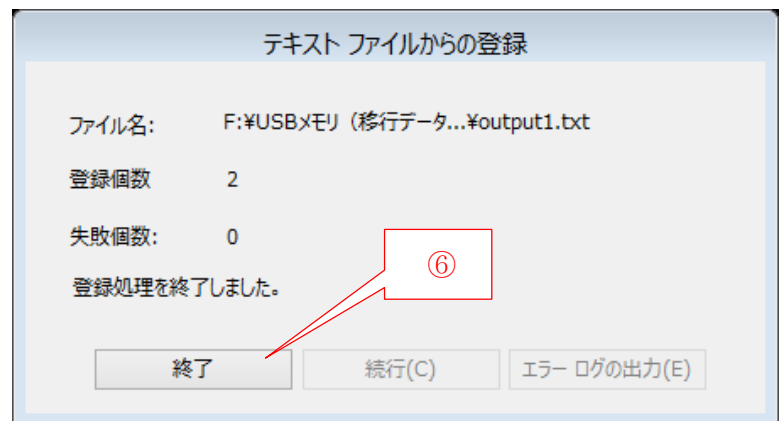
- ④ 「ユーザ辞書」フォルダをダブルクリックして開く



- ⑤ 目的のファイル（例：output1.txt）をクリックし選択した後、
[開く]をクリックして、ユーザ辞書をインストール



- ⑥ [...終了しました]画面が表示されたら、
[終了]をクリックして画面を閉じる



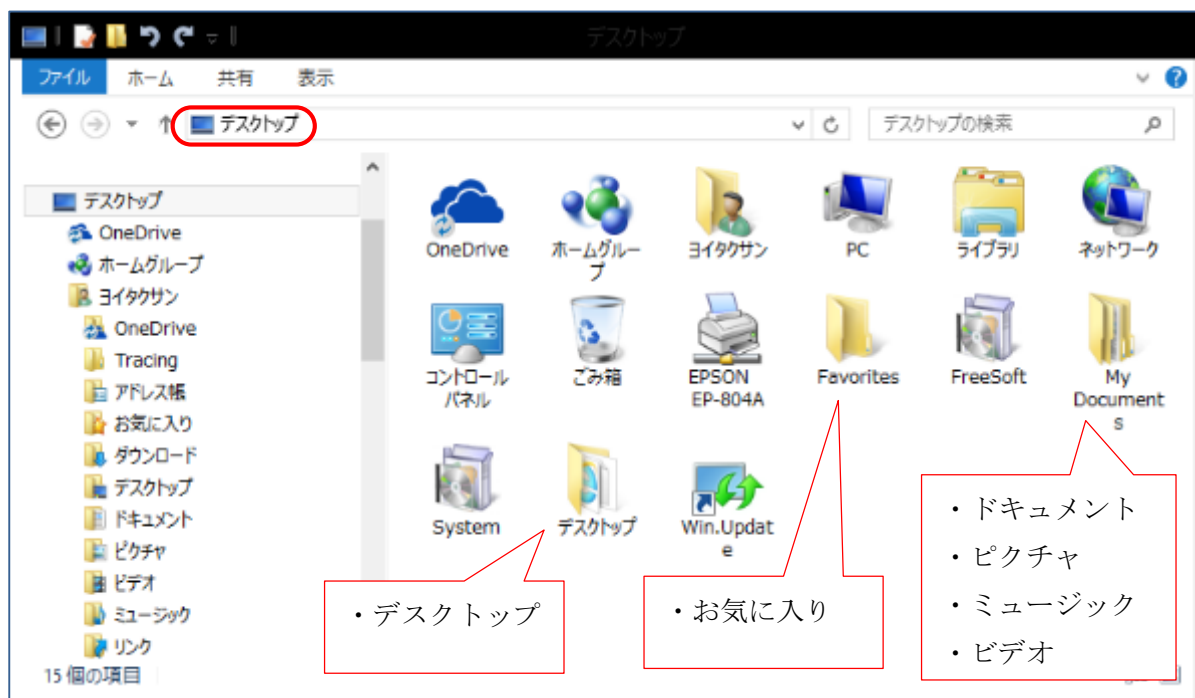
3) ユーザデータを USB メモリからアカウントへ移行

ここでは、XP パソコンの Administrator から移行用 USB メモリへコピーした、ユーザデータを Win. 8.1 パソコンのアカウントへ移行する手順を説明する。

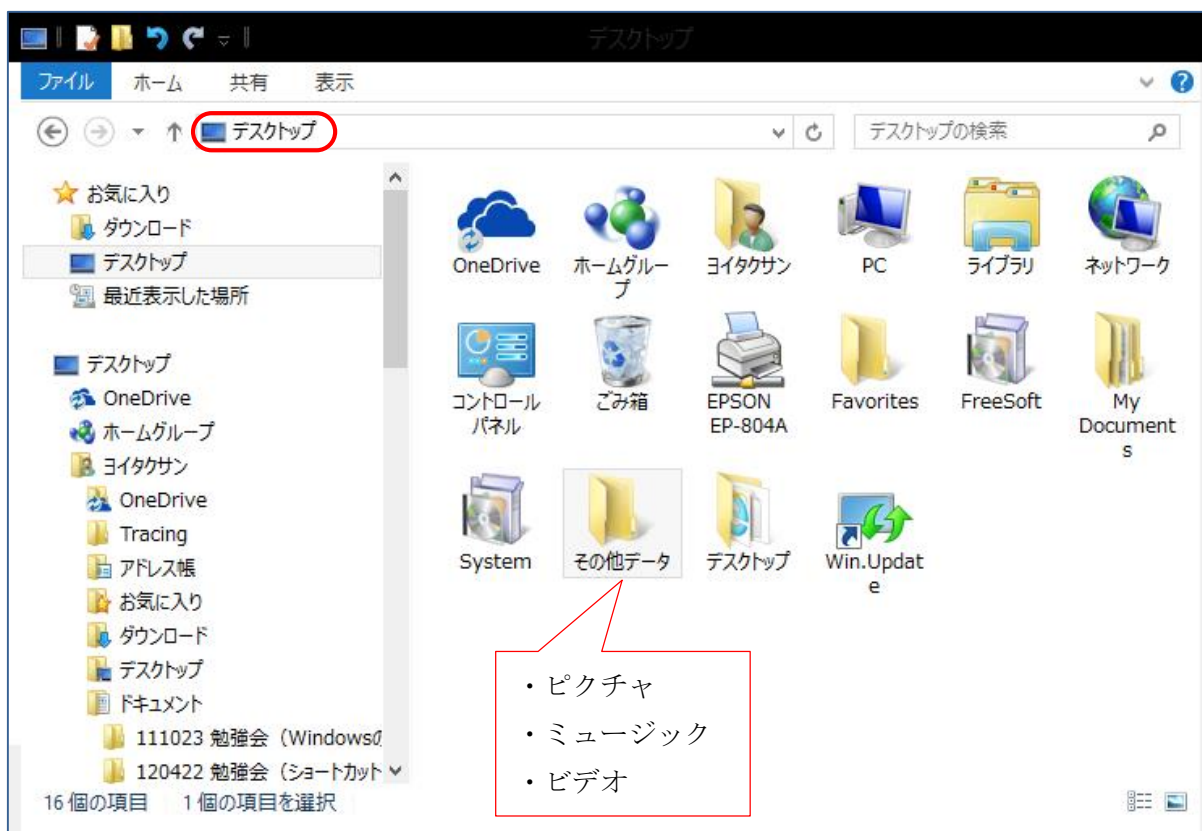
*** 移行の準備 ***

【手順】

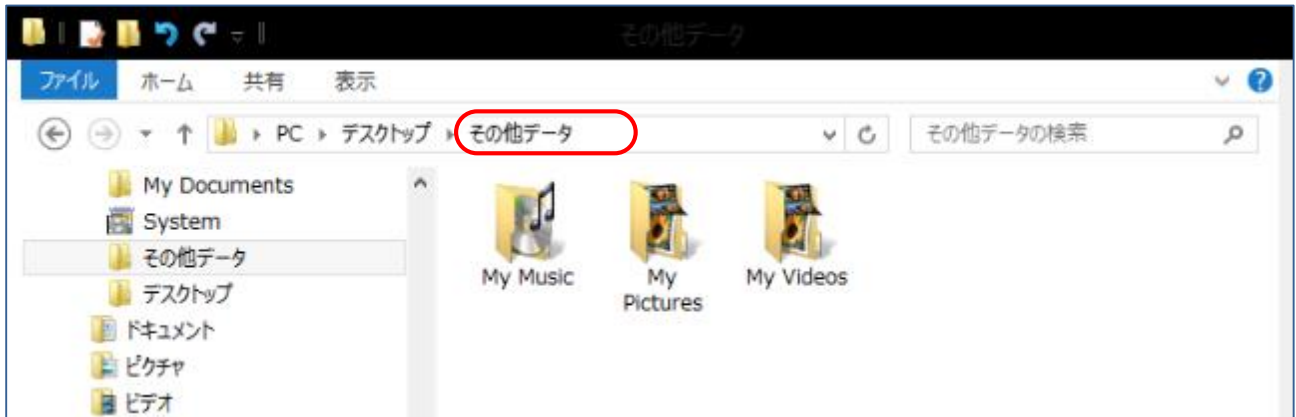
- ① [エクスプローラ] を起動し、移行用 USB メモリの中にあるユーザデータのフォルダ（例：Administrator）を開き、中のフォルダ（Favorites、My Documents、デスクトップ）をデスクトップにコピー



- ② [デスクトップ] をクリックし選択した後、
[ホーム] → [新しいフォルダ] をクリックして新しいフォルダを作成し、「その他データ」と名付ける



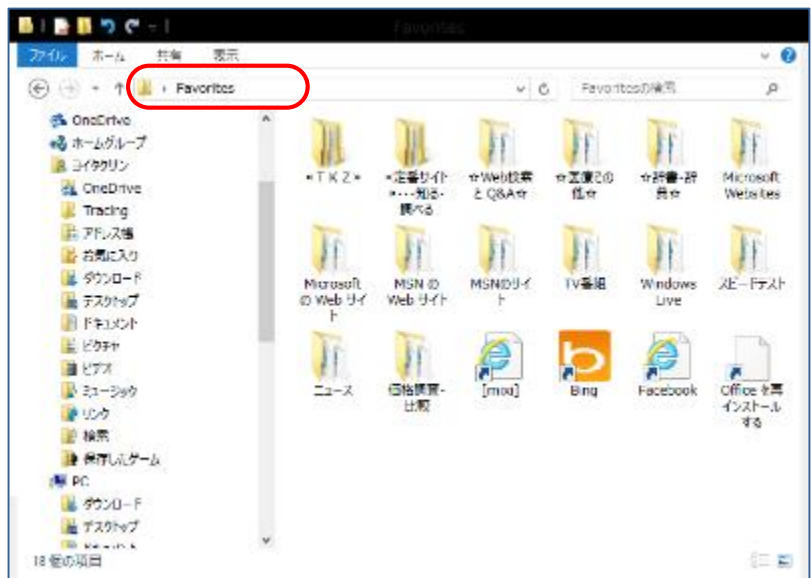
- ③ [My Documents] フォルダをダブルクリックして開いた後、
[My Music] フォルダ、[My Pictures] フォルダ、[My Videos] フォルダを
デスクトップに作成した「その他データ」フォルダへ移動



*** 「お気に入り」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップにコピーした [Favorites] フォルダをダブルクリックして開く



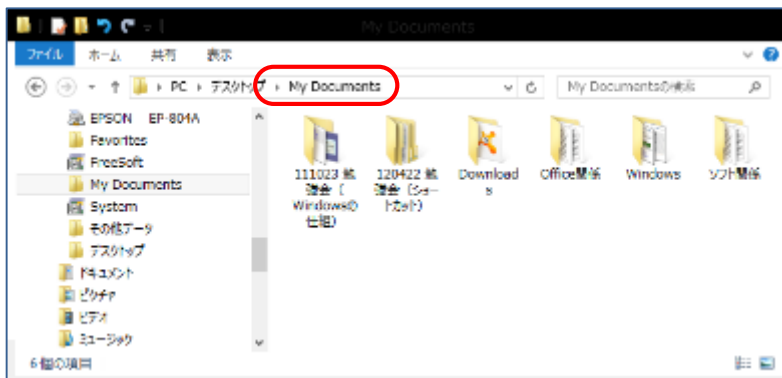
- ② **CTRL** + **A** で全て選択した後、
CTRL + **C** でコピー

- ③ [お気に入り] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V** で貼り付

*** 「マイドキュメント」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップにコピーした [My Documents] フォルダをダブルクリックして開く



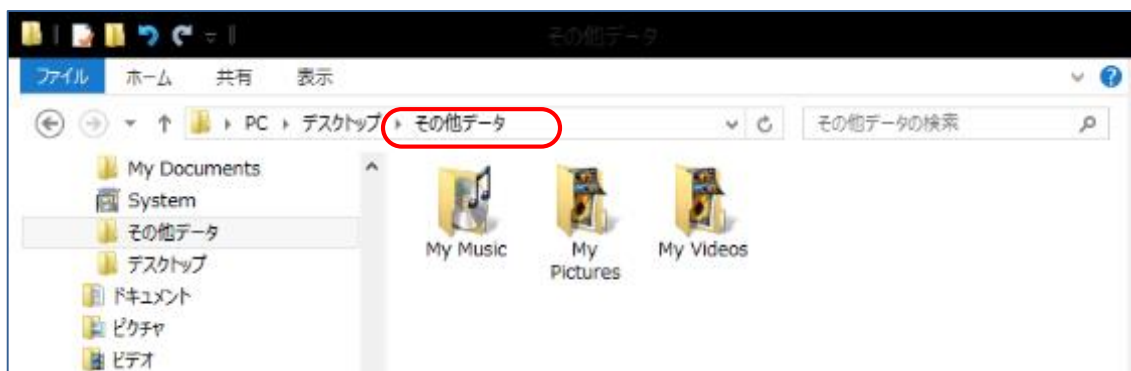
- ② **CTRL** + **A** で全て選択した後、
CTRL + **C** でコピー

- ③ [ドキュメント] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V** で貼り付

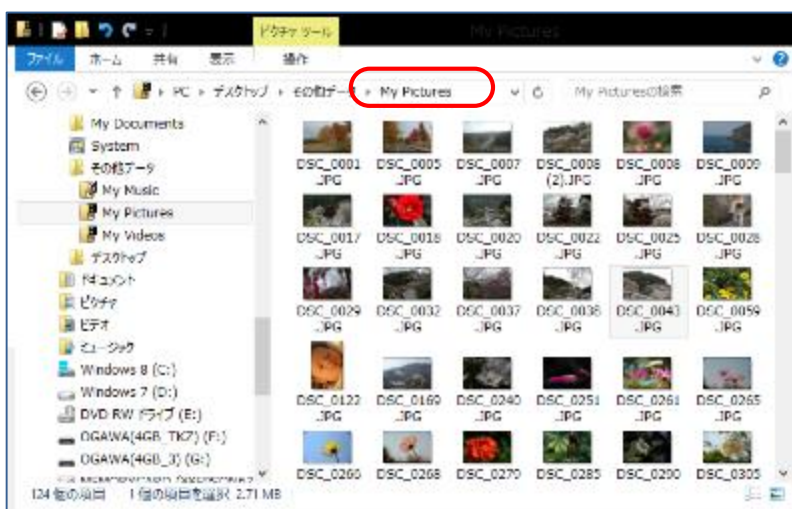
*** 「マイピクチャ」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップに作成した「その他データ」フォルダをダブルクリックして開く



- ② [My Pictures] フォルダをダブルクリックして開く



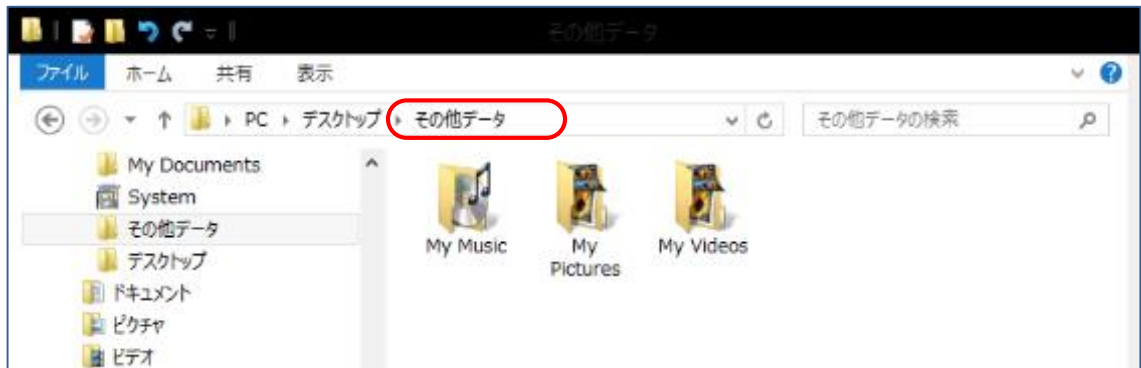
- ③ **CTRL** + **A** で全て選択した後、
CTRL + **C** でコピー

- ④ [ピクチャ] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V** で貼り付

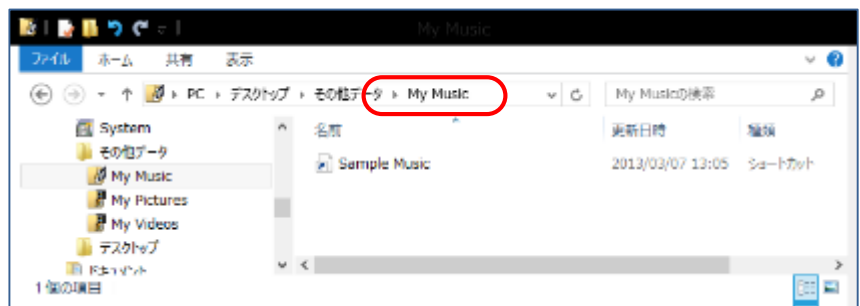
*** 「マイミュージック」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップに作成した「その他データ」フォルダをダブルクリックして開く



- ② [My Music] フォルダをダブルクリックして開く



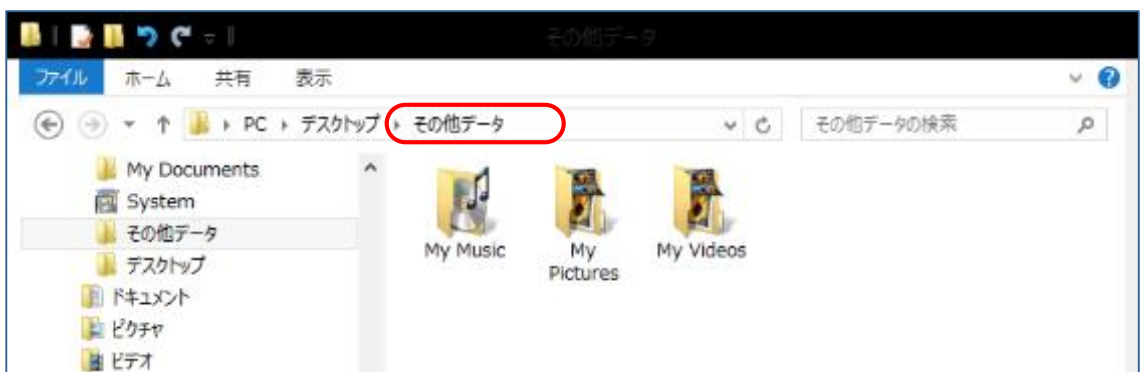
- ③ **CTRL** + **A**で全て選択した後、
CTRL + **C**でコピー

- ⑤ [ミュージック] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V**で貼り付

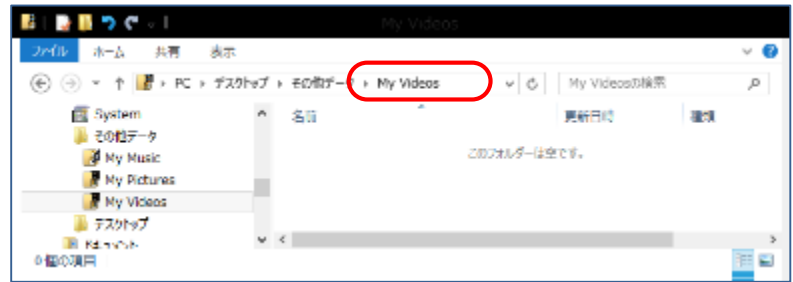
*** 「マイビデオ」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップに作成した「その他データ」フォルダをダブルクリックして開く



- ② [My Videos] フォルダをダブルクリックして開く。



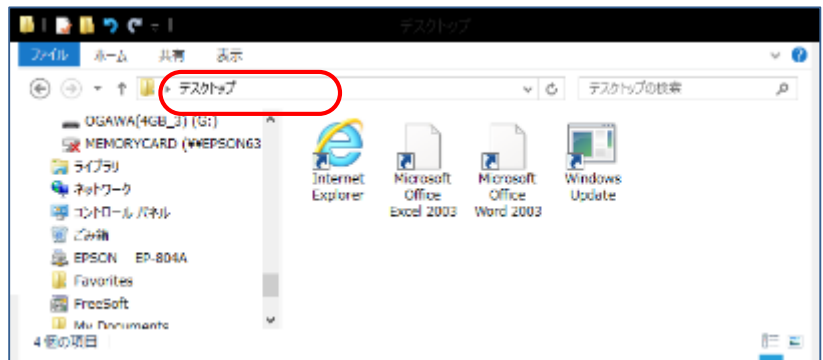
- ③ **CTRL** + **A** で全て選択した後、
CTRL + **C** でコピー

- ⑥ [ビデオ] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V** で貼り付

*** 「デスクトップ」の移行 ***

【手順】

- ① デスクトップにコピーした [デスクトップ] フォルダをダブルクリックして開く



- ② **CTRL** + **A** で全て選択した
後、
CTRL + **C** でコピー

- ③ [お気に入り] をクリックし選択した後、**CTRL** + **V** で貼り付

お疲れさまでした !